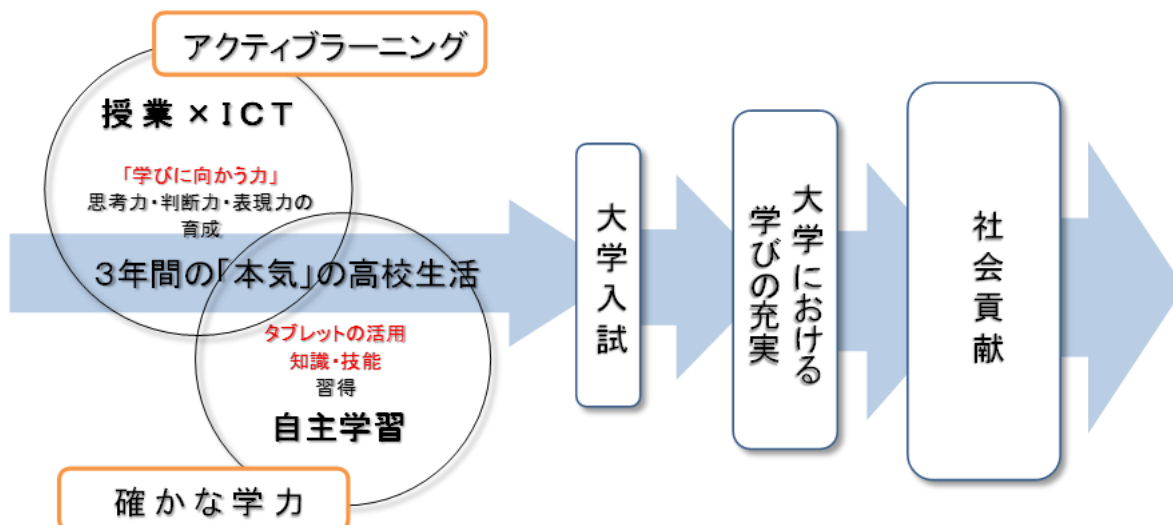


令和8年度科目履修案内 第2学年 目次

		頁
大宮北高校「本気の学習」		1
2年生の学習の指針		2
令和7年度入学生教育課程表(普通科・理数科)		4
科目選択・コース選択をする際に		6
<各教科より>	コース・科	
1 国語科		9
	論理国語	10
	古典探究	11
	観点別評価	12
2 地理歴史科	歴史総合	14
	観点別評価	18
3 数学科		19
	数学ⅡB	23
	SS理数数学Ⅱ	25
	観点別評価	27
4 理科		29
	物理基礎	30
	物理基礎サイエンス物理	31
	地学基礎	32
	サイエンス化学	33
	サイエンス生物	34
	SS理数化学	35
	SS理数生物	36
	SS理数物理	37
	観点別評価	38
5 保健体育	体育	46
	保健	49
	観点別評価	51
6 英語科		53
	英語コミュニケーションⅡ	55
	論理・表現Ⅱ	56
	観点別評価	57
7 STEAMS TIMEⅡ		58
	観点別評価	63

大宮北高校「本気の学習」

教育改革の先進校で学ぶ喜び



北高生は自らが自己の高校生活に「本気」で取り組み成長します。
どんな「本気」で取り組み、自分の高校生活を豊かにしますか？
多彩な学校生活には「本気の部活動」「本気の学校行事」もあります。
「本気の学習」を大切に、「本気の部活動」「本気の学校行事」を生かしましょう。
大宮北高校は皆さんの「本気」を応援します。

授 業

大宮北高校の授業は「学問の魅力」を伝えます。
大学入試に対する表面的なノウハウだけを伝えるものではありません。
自ら積極的に発信し、学ぶことの楽しさを感じてください。
授業を中心とした予習・復習のサイクルを確立することで「学びに向かう力」が育ちます。
希望の大学に進学できる、大学入学後にも生きる「力」がつかます。
ICTを活用した「アクティブラーニング」→「思考力」「判断力」「表現力」の育成
「脱、教え込み授業」→「発信力」を育て、「学びに向かう力」「人間性」を滋養します。

自主学習

大宮北高校では自ら学び、学問を深める力を必要と考えています。
社会に貢献できる人材となるために、自らの「志」に向かった努力が必要です。
通学時間や部活動等によって個々の時間の使い方は変わります。
個人タブレットをどのように活用するか。受信データをどう活用するかは個人に任せられます。
3年間を見据えた学習計画、各学年における学習計画をもとに、
個々の日々の学習計画を構築していきましょう。
苦手科目も克服していけるようにバランス良く時間を確保することが大切となります。
学習計画は担任の先生等との面談を通して確認していきましょう。
理数科・普通科併置による充実した学習システム→互いの「知的好奇心」を刺激・成長
海外交流事業、海外修学旅行等→国際社会に通用する視野を持つグローバル人材の育成

2年生の学習の指針

基本的な姿勢

2年生は、高校生の中核になる学年です。部活動においても、学校行事においても北高の中核として全体の事を考えて行動しなければなりません。しかし、ともすると、生活面、学習面において中だるみにおちいり進路意識が希薄になり易いのです。逆にこの時期をうまく自分をコントロールし乗り越えることができれば、自分の目指す進路実現に近づくのです。

進路実現への方策には
希望を叶える為の十分な学力の裏づけと学費が必要です。

その対策として

- ① 将来の職業についてしっかりした意識を持つ
- ② 充実した高校生活を過ごす。→ 日々の自分を振り返る。
- ③ 保護者と自分の進む道に関して十分に話し合う。資金面も学力があれば特待生制度(入学試験や日常の成績が優秀な生徒に対して、学費の一部や全額を免除する制度)の利用も可能になり資金面において有利になります。
- ④ 定期考査毎に目標を定めて頑張る。
- ⑤ 得意科目をつくる。→ 英語なら更によい →英検2級以上の取得
TOEIC などへの挑戦
- ⑥ 平日の学習習慣の確立 → 1日あたり3時間の学習。

学習の目標

- ① 受験科目の教科書の問題がすべて解けるようにする。
- ② 英単語・英熟語を完璧にする。
- ③ 今年度の共通テストを実際に解き六割程度の正答率をとることを目指す。
- ④ 模擬試験で、1年の1月の偏差値から2年の1月の偏差値で5~10アップさせる。国公立大学でA又はB判定の獲得を目指す。
- ⑤ 得意科目をつくる。
- ⑥ 1年と同様 **予習 → 授業 → 復習** の黄金の三角形を維持する。

方 策 …個々の努力目標 PDCA サイクルからOODAサイクルへ

OODA とは、**Observe (観察)**、**Orient (状況判断、方向づけ)**、**Decide (意思決定)**、**Act (行動)**の頭文字をとったものです。これは目標を達成するための要素を 4 つの段階に分け、成功に導く手法です。

Observe (観察)

思い込みや予断を捨て、相手である大学受験を見据えます。

どこの大学で何をどのように学びたいか、どんな大学がある？ 何が違う？

オープンキャンパスに行くことも大切な観察の機会です。

Orient (状況判断、方向づけ)

観察結果に基づき、方向付けを行います。

観察が十分であればより精度が高まっていきます。

今の生活や学習態度を振り返り、日々をこう過ごそうと方向を定めます。

Decide (意思決定)

これからの具体的な学習方針や行動プランを策定します。

観察をもとに方向付けをしてあるので、実効性が増します。

自分の進路希望としっかり向き合い、決断をします。

Act (行動)

さあ実際に行動に移しましょう。

PDCA は日々変わらない環境の中で最善を尽くす方法を探るメソッドです。**理想的な学習方法の一般論**と言えるでしょう。1年生では手順に従って状況分析を行い、自分の状況を改善していく計画を立て実行するサイクルを身につける学習をめざします。

しかし、実際の高校生活では**部活動や家庭環境等、個々の状況を分析し、自分の戦略を立てて実行することが必要**です。これが **OODA** です。OODA は、刻一刻と変わる状況に対応できる機動的なメソッドです。時代の変化や個々のニーズに対する即応性が高いと言えます。

PDCA は、安定した環境において人間関係などの心理的要素が入らない場合にその真価を発揮します。一方、OODA は状況に応じて即断するメソッドなので、人間的側面が大きいです。それだけに **OODA は単にメソッドを取り入れるだけでは成り立たず、高校生活の状況、学校の体制、人としての成長から取り組んでいく必要があります、成就するにはある程度の時間を要します。**

PDCA を知り OODA に切り替えていく力が実際の進路実現には不可欠な要素なのです。

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年			計	
教科	科目				A 1	A 2	B		
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	2	2				12~18	
		言語文化	2	2					
		論理国語	4		2	3	3		2
		古典探究	4		3	3	4		1
		文学国語	4			3			
	地理 歴史	地理総合	2	2					5~14
		歴史総合	2		3				
		日本史探究	3			●5	●5		
		世界史探究	3			●5	●5		
		地理探究	3				○4	○3	
		(学)歴史探究(日本史)				○2			
	(学)歴史探究(世界史)				○2				
	公民	公 共	2	2					2~6
		倫 理	2			○2	○2		
		政治・経済 (学)公共探究	3			○2	○2	○3	
	数 学	数 学 I	3	3					11~18
		数 学 II	4		4				
		数 学 III	3					4	
		数 学 A	2	2					
		数 学 B	2		2				
		数 学 C	2					3	
		(学)数学探究	2~4			○2	4		
	理 科	物 理 基 礎	2		2				10~20
		物 理	4					●5	
		化 学 基 礎	2	2					
		化 学	4					5	
		生 物 基 礎	2	2					
生 物		4					●5		
地 学 基 礎		2		○2					
(学)サイエンス化学		2		○2					
(学)サイエンス物理		2		●2					
(学)サイエンス生物		2		●2					
(学)化学探究		3				▲3			
(学)地学探究	3				▲3				
保健 体育	体 育 基 礎	7~8	3	3	2	2	2	10	
保 健	2	1	1						
芸 術	音 楽 I	2	●2					2	
	美 術 I	2	●2						
	書 道 I	2	●2						
外 国 語	英 語 コミュニケーション I	3	3					16~19	
	英 語 コミュニケーション II	4		3					
	英 語 コミュニケーション III	4			4	4	4		
	論 理 ・ 表 現 I	2	2						
	論 理 ・ 表 現 II	2		2					
	論 理 ・ 表 現 III	2			2	2	2		
	(学)英語特講				3				
家庭 家庭基礎	2	2					2		
主として専門学科において開設される各教科・科目	家庭 保 育 基 礎	2~6			▲2			0~2	
	音楽 演 奏 研 究	2~6			▲2				
	美術 クラフト・デザイン	2~10			▲2				
	書道 実用の書2608	2~4			▲2				
	体育 ス ポ ー ツ II	2~12			▲2				
SS理数	STEAMS Time I	2	2					6	
	BEST CLASS	1		1					
	STEAMS Time II	2		2					
	STEAMS Time III	1			1	1	1		
小 計			32	32	32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	1	1	3	
合 計			33	33	33	33	33	99	
(週当たりの授業時数)			(34)	(34)	(34)	(34)	(34)	(102)	
備 考	<p>1年 ●印から1科目選択 2年 ●、○印からそれぞれ1科目選択 3年</p> <p>(A1) ●、○、▲印からそれぞれ1科目選択。 (A2) ●、▲印からそれぞれ1科目選択 ○印の選択は以下の(ア)または(イ)または(ウ)を選択する。 (ア)地理探究 (イ)政治・経済、公共探究 (ウ)倫理、公共探究</p> <p>(B) ●、○印からそれぞれ1科目選択。</p> <p>1年 「STEAMS Time I」 SSH指定校として情報I(2単位)の代替</p> <p>2年 「STEAMS Time II」 SSH指定校として課題研究の内容に応じて選択 理数探究、音楽II、美術II、書道II(2単位)の代替</p> <p>2年 「BEST CLASS」 「英語コミュニケーションII」を1単位分減単</p>							<p>・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位</p> <p>・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位</p>	

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年	計	
教科	科目						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	2	2		11	
		言語文化	2	2			
		論理国語	4		2		2
		古典探究	4		2		1
	地理 歴史 公民	歴史総合	2		2		7
		地理総合	2	2			
		地理探究	3			3	
	保健 体育	体育	7~8	2	3	2	9
		保健	2	1	1		
	芸術	音楽 I	2	● 2			2
		美術 I	2	● 2			
		書道 I	2	● 2			
		(STEAMS Time II 音楽)			(2)		
		(STEAMS Time II 美術)			(2)		
		(STEAMS Time II 書道)			(2)		
	外 国 語	英語コミュニケーション I	3	3			16
		英語コミュニケーション II	4		3		
		英語コミュニケーション III	4			4	
		論理・表現 I	2	2			
論理・表現 II		2		2			
論理・表現 III		2			2		
家庭	家庭基礎	2	2			2	
主として専門学科において 開設される各教科・科目	S S 理 数	SS 理数数学 I	5~7	6		47	
		SS 理数数学 II	7~9		6		
		SS 理数数学特論	4~6				7
		SS 理数生物	6~8	2	2		● 5
		SS 理数化学	6~8	2	2		5
		SS 理数物理	6~8		4		● 5
		STEAMS Time I	2	2			
		BEST CLaSS	1		1		
		STEAMS Time II	2		2		
		STEAMS Time III	1				1
小 計			32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	3	
合 計 (週当たりの授業時数)			33 (34)	33 (34)	33 (34)	99 (102)	
備 考		1年 ●印から1科目選択 3年 ●印から1科目選択 1年 「SS理数数学 I」 SSH指定校として「理数数学 I」(6単位)の代替 2年 「SS理数数学 II」 SSH指定校として「理数数学 II」(6単位)の代替 3年 「SS理数数学特論」 SSH指定校として「理数数学特論」(7単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数生物」 SSH指定校として「理数生物」(9単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数化学」 SSH指定校として「理数化学」(9単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数物理」 SSH指定校として「理数物理」(9単位)の代替 1年 「STEAMS Time I」 SSH指定校として情報 I (2単位)の代替 2年 「STEAMS Time II」 SSH指定校として理数探究(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーション II」を1単位分減単				・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位 ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位	

=科目選択・コース選択をする際に=

2027年度第3学年の科目選択・コース選択

普通科3年生では、A1コース(私立文系)、A2コース(国立文系)、Bコース(理系)の3コースに分かれます。また、理数科3年生では、コースはありませんが、選択科目を一つ選ばなくてはなりません。次の各科目の説明をよく読んで、コース・科目選択に間違いがないようにしましょう。

<普通科A1(私立文系)コース>

日本史探究	主に近世から現代までの日本史の展開を、日本のみならず東アジアの視点、さらには世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく考察します。また、後半には一般入試等に備えて問題演習を行います。
世界史探究	主に近世から現代までの世界史を学びます。後半には一般入試等に備えて問題演習を行います。2年生の必修で扱わなかった範囲を学習するので、受験で世界史を必要とする人は必ず選択して下さい。
歴史探究 (日本史)	主に「歴史総合」で扱った時代(日本史範囲中心)の復習を行います。講義形式と演習形式での実施予定です。
歴史探究 (世界史)	主に「歴史総合」で扱った時代(世界史範囲中心)の復習を行います。講義形式と演習形式での実施予定です。
公共探究	「公共」の内容を復習しつつ、より発展的な内容を学習します。講義と演習を繰り返しながら授業を進めていきます。
倫理	時代、地域ごとに過去の優れた思想家の基本的な考え方を学習します。社会全体の解釈や青年期なども学習分野です。幅広く先人の智に触れ、自身の価値観や信条を鍛えてほしいと思います。内容レベルは現在の共通テストを想定しています。
数学探究	数学I+Aを中心に大学入試共通テストや私立文系の数学受験に対応する演習を行います。
演奏研究	音楽・美術・書道選択者をとわず、選ぶことができます。演奏、鑑賞、発表を通して、音楽や作品への理解を深めます。
クラフト デザイン	音楽・美術・書道選択者をとわず、選ぶことができます。 生活全般にわたり、形や色などを活用し、生活の中で生きるデザインを行います。
実用の書	音楽・美術・書道選択者をとわず、選ぶことができます。 実用の書では、日常生活に係わる古くからの日本の習慣(冠婚葬祭を含む)に必要な書式等を学びます。又、表札(10×20)の制作、写経、硬筆を楽しく学びます。
スポーツII	(1) ゴール型球技の理解と実践、(2) ネット型球技の理解と実践、(3) ベースボール型球技の理解と実践 *種目の種類については、人数・男女の割合・施設等を考慮し1学期初めに決定します。
保育基礎	子供の発達や特徴及び子供の福祉と文化などについて理解し、関連する技術を身に付けます。子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ創造的に取り組む態度を養います。進路が福祉・保育の人でなくてもやる気のある人は相談に来てください。実習費2000円を予定しています。

<普通科A2（国立文系）コース>

日本史探究	主に近世から現代までの日本史の展開を、日本のみならず東アジアの視点、さらには世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく考察します。また、後半には一般入試等に備えて問題演習を行います。
世界史探究	主に近世から現代までの世界史を学びます。後半には一般入試等に備えて問題演習を行います。2年生の必修で扱わなかった範囲を学習するので、受験で世界史を必要とする人は必ず選択して下さい。
政治・経済 ＋ 公共探究	政治・経済は、現在の社会を理解し判断するために必要な基本知識を学びます。源流となる思想から現在のトピックまで、可能な範囲で学習します。1年の現代社会で扱うことができなかった範囲を中心に扱います。現代社会で受験する人も選択してください。 公共探究は、「公共」の内容を復習しつつ、より発展的な内容を学習します。講義と演習を繰り返しながら授業を進めていきます。
倫理 ＋ 公共探究	倫理は、時代、地域ごとに過去の優れた思想家の基本的な考え方を学習します。社会全体の解釈や青年期なども学習分野です。幅広く先人の智に触れ、自身の価値観や信条を鍛えてほしいと思います。内容レベルは現在の共通テストを想定しています。 公共探究は、「公共」の内容を復習しつつ、より発展的な内容を学習します。講義と演習を繰り返しながら授業を進めていきます。
地理探究	1学期には世界の地形・気候および都市と村落を、2学期には世界各地域の地誌を扱います。その後、共通テストに向けての過去問演習、類題演習を行います。因果関係を重視しながら、ニュースや新聞で見聞きする事柄とも結びつけ、現代社会の知識を土台にして進めていきます。
地学探究	地学基礎の内容で2年生で終わらなかった範囲の授業を行います。 全範囲終了後、共通テストに向けて問題演習を実施します。
化学探究	「化学基礎」の共通テスト対策演習および考査を行います。「化学基礎」で共通テストを受験する者は必ず受講してください。受講者にのみ補習を開講します。

<普通科B（理系）コース>

地理探究	1 学期には世界の地形・気候および都市と村落を、2 学期には世界各地域の地誌を扱います。その後、共通テストに向けての過去問演習、類題演習を行います。因果関係を重視しながら、ニュースや新聞で見聞きする事柄とも結びつけ、現代社会の知識を土台にして進めていきます。
公共探究	「公共」の内容を復習しつつ、より発展的な内容を学習します。講義と演習を繰り返しながら授業を進めていきます。
物理	2 年生で学習した「物理基礎」に含まれない力学や熱力学、音波・光波、電磁気学さらには原子物理までを学びます。理工系への進学を考えている人は学習しておく必要があります。
生物	2 年生で学習した「生物基礎」の残っている生態分野と「生物」を合わせて学習します。理系として必要とされる「生物」の知識を学びます。また、大学入試に対応した「生物基礎」「生物」の両方の分野の演習を行います。

<理数科>

SS 物理	力学後半（円運動・単振動・万有引力等）、電磁気学、熱力学、原子物理学を学びます。また、2 学期は大学入試に向けた問題演習を行っていきます。
SS 生物	「生物」の学習していない分野を学びます。また、入試に対応した「生物基礎」「生物」の両方の分野の演習を実施します。

1 国語科

◆ 国語という教科 … 日常の積み重ねを大切に

教科の学習を通して、生涯にわたる社会生活において他者との関わりにおける伝え合う力や、思考力や想像力を身につけられることが最終的な目標となります。そのためにも、多くの作品に触れ、自分なりの意見を持ち、他人の考えからヒントをもらい、さらに考えを深められるように学習していきましょう。

国語の学習は、読解力・表現力だけではなく感性を磨き、思考力を高め、豊かな感受性を育むことにつながります。日頃から、語彙力を豊かにし、いろいろな文章に触れ、人の話に耳を傾け、自らも文章を書き、発言してみることが大切です。

また、そのためにも語彙や文法などの基礎知識が重要となってきます。正しい意味、言葉の使い方を身につけ、自在に扱えるようになることを目指しましょう。

◆ 2年次の科目

<論理国語>

「論理国語」で扱うのは、主に《論理的な文章》や《実用的な文章》です。1年次で学習した「現代の国語」の延長線上にあります。ただ文章を読んでいくのではなく、話し合いなどの様々な言語活動を通じて、「筆者の表現の工夫をもとに、筆者の主張を捉える力」「自分の考えを深める力」「自分の考えを言語化する力」「他者の意見から多面的に物事を捉えられる力」を身につけていきます。そのためにも、まずは自分の意見をしっかりとつよう、主体的に学習に臨みましょう。また、1年次よりも文章の難易度が上がるので、基礎知識の定着も常に心掛ける必要があります。

また、この科目の中で、《近現代の小説》にも論理的な読み方で触れていきます。他の教科にも影響する、「論理的に考える力」や「実社会に必要な知識」を身につけ、養っていく科目です。

<古典探究>

「古典探究」で扱うのは、《古文》《漢文》の作品です。日本の言語文化に対する理解を深めていく科目です。古文と漢文は教科書が別々に用意されており、1年次以上に幅広く作品に触れていきます。古典作品に対しても「自分がどう感じたのか」を表現することが重要です。そのためには、正確に文章を読み取る力が求められます。それは、多様に使用される語彙や文法を正確に識別することと表裏一体です。つまり、1年次で学んだ古典文法や単語をさらに定着させていくことが重要となるのです。

◆ 「古典」の学習について

<古文の学習>

日本における、近代よりも前の文学作品を「古文」といいます。ジャンルは詩歌や物語、随想など多岐にわたります。一番の特徴は「言葉の違い」です。現代の言葉遣いからイメージできる単語もあれば、意味の異なる単語もあります。また、文法も現代の日本語とは異なります。作品の世界を味わい、理解を深めていくためにも「単語」と「文法」のマスターがとても重要です。単語帳や文法書を活用し、正しい知識を身につけましょう。

<漢文の学習>

「漢文」は漢語（中国の文語）を用いて書かれた文章や詩です。高校の授業で扱う作品は限られていますが、詩歌や物語など様々な作品に触れます。中国の言葉で書かれているので、「句法」や「語彙」など新しく学ばなくてはならないことがたくさんあります。参考書や国語便覧を活用し、古文同様に正しい知識を身につけましょう。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
論理国語	2	高等学校 論理国語[第一学習社]	『新訂版常用国語便覧』（浜島書店） 『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店） 『四訂版TOP2500』（いっずな書店） 『近現代文学コレクション』（第一学習社）			
【到達目標】	①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
【学習上の留意点】	①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。					
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	評論（一） ○自他の「間あい」 近代の小説（一） ○山月記	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
6月～7月	1学期 期末	評論（二） ○「私」中心の日本語 現代の小説（一） 富岳百景	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
9月～10月	2学期 中間	評論（三） ○手の変幻 近代の小説（三） ○こころ	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
11月～12月	2学期 期末	評論（四） ○A I時代の社会と法 評論（五） ○なぜ多様性が必要か	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
1月～3月	3学期 学年末	評論（六） ○「第二の身体」としてのメディアと技術	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
古典探究		3	精選 古典探究（古文編・漢文編） 〔東京書籍〕	『新訂常用国語便覧』（浜島書店） 『四訂版Key&Point古文単語330』（いいずな書店） 『基礎から解釈へ新しい古典文法』（桐原書店） 『漢文必携 五訂版』（桐原書店）		
【到達目標】		<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
【学習上の留意点】		<p>①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。</p> <p>③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。</p> <p>④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。</p>				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	古 伊勢物語「初冠」 枕草子「雪のいと高 う降りたるを」	<input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題） <input type="checkbox"/> 作品・作者理解 <input type="checkbox"/> 文法の理解	○	○	○
		漢 小話「先従隗始」	<input type="checkbox"/> 訓読・書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）			
6月～7月	1学期 期末	古 方丈記「安元の大火」	<input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題） <input type="checkbox"/> 作品・作者理解 <input type="checkbox"/> 文法の理解	○	○	○
		漢 史記「鴻門之会」	<input type="checkbox"/> 訓読・書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）			
9月～10月	2学期 中間	古 蜻蛉日記「なげきつつ ひとり寝る夜」	<input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題） <input type="checkbox"/> 作品・作者理解 <input type="checkbox"/> 文法の理解	○	○	○
		漢 史記「四面楚歌」 史記「項王自刎」	<input type="checkbox"/> 訓読・書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）			
11月～12月	2学期 期末	古 更級日記「門出」 「物語」 大鏡「花山天皇の出家」	<input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題） <input type="checkbox"/> 作品・作者理解 <input type="checkbox"/> 文法の理解	○	○	○
		漢 思想1「性之善也、猶 水之就下」	<input type="checkbox"/> 訓読・書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）			
1月～3月	3学期 学年末	古 源氏物語 「光源氏の誕生」「若紫」	<input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題） <input type="checkbox"/> 作品・作者理解 <input type="checkbox"/> 文法の理解	○	○	○
		漢 思想「無用之用」「大 道廢、有仁義」 「小国寡民」「夢為胡蝶」	<input type="checkbox"/> 訓読・書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）			

観点別評価ルーブリック

教科
科目
国語
論理国語

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	定期 調査 課題 小テスト	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるとができる。	定期 調査 課題 観察 等	該当問題80%以上程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が標準 的である。	該当問題40%未満の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が乏しい。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わろうとする態度を養う。	課題 行動 観察 小テスト 定期 調査 等	課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動が優れている。	課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動が標準的である。	課題に取り組む姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目
国語
古典探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	定期考査 課題考査 小テスト	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期考査 課題考査 観察等 行動観察	該当問題80%以上程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が標準的 である。	該当問題40%未満の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が乏しい。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わろうとする態度を養う。	課題 行動観察 小テスト 定期考査等	課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動が優れている。	課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動が標準的である。	課題に取り組み姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動に乏しい。

2 地理歴史科

1、「歴史総合」とは

これまで皆さんは、小学校・中学校の時に「古代から現代にいたる日本の歴史」を学習したと思います。では私たちが2年生で学ぶ「歴史総合」という科目はどんなものなのでしょうか？

ここでは3つの特徴をまとめました。

- ①日本史と世界史を関連づけることで、世界史の中の日本史をとらえようとする科目
- ②古代からの通史ではなく、主に近代・現代を扱う科目
- ③現代に生きる私たちの在り方や直面する課題について考えるという観点から歴史を見ようとする科目

つまり、おもに18世紀以降の日本の歴史を世界の動きと結びつけながら学ぶことで、様々な歴史上の出来事に関連づけ、「現代の問題は“なぜ”生まれたのか」を理解するための科目です。

2、歴史を学ぶにあたって

「歴史」というと、好き・嫌い、得意・不得意が大きく分かれる科目かもしれません。「嫌い」・「不得意」と言う人に理由を聞くと、「覚えられないから」・「暗記が苦手」といった答えが返ってきます。また、「昔のことなんか知ったって何の役にも立たない」と言う人もいます。

さて、そういう人はまず視点を変えてみて下さい。

歴史の学習で本当に大切なのは「覚えること」ではなく「理解すること」です。

例えば高校受験の際に、「1939年に第二次世界大戦開始」「1945年に第二次世界大戦終結」、と、一生懸命覚えた人もいるでしょう。確かに年号も重要。テストなどではそうした項目も問われるかもしれませんが、しかし、本当に学ぶべきなのは、

「なぜ1939年に世界大戦が始まることになったのか、それまでにどのような経緯があったのか」

「どのような経過を経て1945年に世界大戦が終わったのか、その結果世界はどう変わったのか」です。

世界で起こる諸現象には、すべて「因果関係（原因と結果）」があり、それによって人間社会は大きく動いています。みなさんに歴史の授業で注目してほしいのは、まさにそうした「因果関係」です。

人類がどのように社会を築き上げてきたのか、何が平和や安定をもたらし、何が悲劇や破滅へと導いたのか、それらを過去の多くの事例から解き明かすことによって、私たちはこれからの社会をどのように築くべきなのか、たくさんの手がかりを得ることができます。

つまり、歴史とは「過去を知ることを通して未来を考える」学問です。

現在の世界情勢を見ても、実に混沌として様々な問題があふれています。それらも過去の歴史の中に発端を見出すことができます。逆に、歴史を学ばず過去の失敗を知らないということは、自分の生きている現在がなぜこのような姿なのかを正しく理解できず、あるいは大きな過ちを繰り返す危険を抱えることにもなります。これは、将来どんな分野で活躍する人にとっても重要なことです。歴史の知識は、良き未来の担い手となる皆さんにとって、知恵の一助となるはずで

3、授業の心構え

①「読む」・「書く」ことを面倒がらない

- ・歴史とはもともと、「過去の資料を読み解く」学問です。「読む」・「書く」は基本中の基本。教科書や資料集によく目を通し、**大切な情報を読み取れる力を身につけましょう。**
- ・また、ノートを取る際にも、板書をただ書き写すだけでは意味がありません。話の内容を集中して聞き取り、重要だと思うことをどんどん自分なりに書き留めましょう。ノートは「**写す**」ものではなく、自分で「**作る**」ものという意識が大切です。

②バラバラの「丸暗記」をしない

- ・先述したように**歴史は「因果関係」**です。「人物名」・「国名」・「事件名」などをバラバラに覚えようとするのではなく、意味やつながりをしっかり理解し、ひと続きの物語として**頭の中にストーリーを描ける**ようにして下さい。語句だけの「丸暗記」では、本当の意味での歴史の知識にはなりません。
- ・ただし、習った項目の全てを一度に覚えろというわけではありません。
世界史の知識は、積み木のように下から一つ一つ全部積み上げなくても構いません。パズルのように、根気強く一つ一つのピースを隙間に置いていく作業を繰り返していくと、それらがある日ふと繋がって、「**こういうことだったのか!**」と**全体像が見える**ようになることもあります。

③世界のニュースに関心を持つ

- ・例えば、好きな俳優やアーティストがいる人は、その人の過去の経歴や、子ども時代のエピソードなどにも関心があることでしょう。そうした経歴が、現在のその人の生き方や芸風にどう影響を与えたのかを知るのは、新たな発見であり、興味深いことだからです。同様に、ニュースをよく見て現在の世界を把握している人は、過去の出来事を学んだときに、「**だからこの地域は今こうなっているのか**」「**だからこの国とこの国はこういう関係になったのか**」と**新たな発見がある**はずです。
- ・歴史を学んで面白いと感じる人の多くは、この「**そうだったのか!**」という「**気づき**」が**持てる人**です。現在の世界に全く興味関心を持たない人は、過去の話にも面白みを見出すことは難しいでしょう。でもそれはとても勿体ないことです。
- ・世界には、これだけ多様な人々が暮らし、多様な文化があり、多様な価値観があるのですから。

④地図に関心を持つ

- ・言葉だけではなかなか理解しづらい国と国との関係も、**地図を見れば一目瞭然**、ということがよくあります。A国とB国とが友好関係にあるのか敵対関係にあるのか、それはその国の位置、地形、周囲の国々の配置、民族分布、その他様々な地理的要因によって決まることも多いからです。
- ・歴史というと、「**時間**」の把握に気を取られがちですが、「**空間**」の**把握も大事**。日頃から資料集などを使って地図に親しむ習慣をつけましょう。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
歴史総合		3	歴史総合 近代から現代へ [山川出版社]	新詳 歴史総合 [浜島書店]		
【到達目標】		① 世界と日本を広い視野で捉え、現代の諸課題形成に関わる近現代の歴史を理解する技能を身に付ける。 ② 歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて構想・考察する力や、構想したことを効果的に説明し、それを基に議論する力を養う。 ③ よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養い、我が国の歴史に対する愛情、他国の歴史・文化を尊重することの大切さを自覚させる。				
【学習上の留意点】		① 基本的な歴史的事象について、その内容を正しく理解できたか。 ② 日々の出来事に関心を持ち、自己の見識をもとに主体的に判断することができたか。 ③ 進路実現のため、入試や模試への対応力が身についたか。				
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<input type="checkbox"/> イスラーム帝国 <input type="checkbox"/> 明の朝貢体制 <input type="checkbox"/> 幕藩体制 <input type="checkbox"/> 琉球とアイヌ <input type="checkbox"/> 主権国家体制 <input type="checkbox"/> 宗教改革 <input type="checkbox"/> 産業革命 <input type="checkbox"/> アメリカ独立革命 <input type="checkbox"/> フランス革命 <input type="checkbox"/> ナポレオン <input type="checkbox"/> ウィーン体制 <input type="checkbox"/> 資本主義 <input type="checkbox"/> 社会主義 等	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3章 明治維新と日本の立件体制 第4章 帝国主義の展開とアジア	<input type="checkbox"/> 南北戦争 <input type="checkbox"/> 東南アジアの植民地化 <input type="checkbox"/> アヘン戦争 <input type="checkbox"/> 太平天国と洋務運動 <input type="checkbox"/> ペリー来航 <input type="checkbox"/> 大政奉還 <input type="checkbox"/> 藩籍奉還 <input type="checkbox"/> 四民平等 <input type="checkbox"/> 文明開化 <input type="checkbox"/> 自由民権運動 <input type="checkbox"/> 松方デフレ <input type="checkbox"/> 立憲体制 <input type="checkbox"/> 日清戦争 <input type="checkbox"/> 殖産興業 <input type="checkbox"/> 「世界の一体化」の進展 <input type="checkbox"/> アフリカの植民地化 <input type="checkbox"/> 太平洋諸地域の分割 <input type="checkbox"/> 日露戦争 等	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会参加 第6章 経済危機と第二次世界大戦	<input type="checkbox"/> 第一次世界大戦 <input type="checkbox"/> 総力戦 <input type="checkbox"/> 二十一カ条の要求 <input type="checkbox"/> ロシア革命 <input type="checkbox"/> ソ連 <input type="checkbox"/> シベリア出兵 <input type="checkbox"/> パリ講和会議 <input type="checkbox"/> 国際連盟の成立 <input type="checkbox"/> ワシントン会議 <input type="checkbox"/> 大正政変 <input type="checkbox"/> 米騒動 <input type="checkbox"/> 大戦景気 <input type="checkbox"/> 普通選挙運動 <input type="checkbox"/> 労働運動と社会運動 <input type="checkbox"/> 関東大震災 <input type="checkbox"/> 治安維持法 <input type="checkbox"/> 世界恐慌 <input type="checkbox"/> ファシズム 等	○	○	○

11月 ～ 12月	2学期 期末	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革 第3部 グローバル化と私たち 第8章 冷戦と世界経済	□国際連合 □冷戦 □中華人民 共和国の成立 □朝鮮戦争 □パ レスチナ戦争 □終戦処理と戦 犯裁判 □中道政権の誕生 □日 米安保条約 □核開発競争 □「 雪どけ」 □フランス第五共和 制 □アフリカ諸国の独立 □中 東戦争 □キューバ革命 □55年 体制 □自衛隊 □日本社会党統 一と保守合同 □日米安保条約 の改定 □60年安保闘争 □ベト ナム戦争 □沖縄返還 □高度経 済成長 等	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第9章 グローバル化する世界 第10章 現代の課題	□60年安保闘争 □ベトナム戦 争 □沖縄返還 □キューバ危機 □核軍縮 □「ブラハの春」 □ 公民権運動 □ドル＝ショック □石油危機 □プラザ合意 □バ ブル経済 □湾岸戦争 □ソ連崩 壊 等	○	○	○

※ 課題テスト：授業担当者の判断による

※ 実力テスト：授業担当者の判断による

観点別評価ルーブリック

教科
科目
地理歴史
歴史総合

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するため必要となる情報を適切かつ列果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる 得点率	該当問題をおおむね満足できる 得点率	該当問題について努力を要する程度 の得点率
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実に基づき多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる 得点率	該当問題をおおむね満足できる 得点率	該当問題について努力を要する程度 の得点率
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きるとして国民を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて、の自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 議論する学習	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

3 数学科

はじめに 数学を学ぶ意義・姿勢

数学は好き嫌いが激しく分かれる教科です。皆さんの中にも数学なんて大嫌いという人もいれば、数学が一番楽しいという人もいます。高校では好きでも嫌いでも数学を学ばなくてはなりません。もちろん、やらなくては卒業できないからです。かといって、卒業するためだけに数学を勉強するのは悲しいものがあります。目的意識と志をもって学習するために、数学を学ぶ意義・意味を考えましょう。

まず挙げられるのが「数学で学んだ内容（数学的知識）が社会に出て（そのまま）役に立つ」ということです。理系の人で将来開発や研究に携わる人は言わずもがなでしょうが、文系の人でも経済学や商学等では様々な計算を行いますし、確率や統計を用いる場面はあります。

次に挙げられるのが「数学の学習で身に着けた能力が社会に出て活かせる」ということでしょう。数学の学習で身に着けられる最大の能力が「**課題解決能力**」です。決して「計算力」や「ひらめき」ではありません。目の前にある課題に対して「課題を分析し、解決への道筋を探し、解決のためのアイデアを見つけ、それを実際に実行・表現する」ことが出来るようになることが、課題解決能力をつけるということです。

皆さんには前者の「数学的知識」はもちろん、後者の「課題解決能力」を身に着けることを大宮北高校で数学を学ぶ意義・意味だと考えてほしいです。

さて、そのために大事なことは何でしょう。最も大切なことは**能動的に学ぶ姿勢**です。池の鯉のように口をパクパクさせてエサ（知識）を放り込んでもらえるのを待っているような学び方はしないでください。**肉食動物のように自ら獲物（知識）を求めて狩りをするような学習姿勢**を持ってほしいと思います。そのためのポイントとなる以下の点を順次説明しましょう。

- (1) 予習 (2) 授業 (3) 復習 (4) 小テスト・定期考査 (5) ノート

(1) 予習について

数学が得意になる秘訣は予習することです。予習をしないで授業に臨むのは新鮮であるかもしれませんが危険です。

「予習してもわからないのですが…」

わからなくていいのです。予習して教科書が理解できるなら、それはすごい能力です。わからないところを見つけることが大切。授業ではどうやって説明するのかなという楽しみがあります。

「予習の仕方がわからないのですが…」

その時間にやりそうなところを解くだけでいいのです。わからないときはその近辺の例題や説明を参考にして考えるのです。それでもわからないときはマークしておいて次に進んでいいのです。

「予習する意義があるのですか？」

まず最も大切なこととして、**人に教わったことは忘れます。自ら理解したものは体と頭に身に着きます。**自分で理解できればそれがベストなのです。

さらに、**課題解決能力のなかでも最も重要なのは「初めて直面した問題に対応する能力」**です。予習を通して、初めて見た内容を自力で読み理解する…ということを日々続けることが、この能力の育成に大切です。近未来的に言えば、見たことのない入試問題に対応する力がつきます。将来のことを考えれば、研究者や開発者に問われるのは、誰も成し遂げたことのないこと、誰も創ったことのないものを発想・創造する力です。毎日の少しずつの予習が君たちをどれだけ成長させるか考えてください。

(2) 授業について

1. 先生の説明は注意深く聞き、疑問点は必ず質問をする。

「質問なんかしたら自分が分かっていないことが周りにばれちゃうんじゃないか・・・？」

大丈夫です。自分が分かってなければクラスの半分以上は分かっていません。先生の説明は完璧ではありません。あなたが聞きたい質問の答えはみんなが聞きたいことです。遠慮せずに質問してください。生徒の質問が多いのはいい授業の証拠です。

2. 先生の説明の要点は必ずメモをとる。

板書以外の説明もしっかり注意してノートに取るように心掛けましょう。問題を解く着眼点や発想などは、板書の中でなく、説明の中にあるかもしれません。

3. 問題は必ず自分で解く。

授業中に解く問題は、その授業が理解できたかどうかを試すチャンスです。数学では「理解する」だけでなく「解ける」「表現できる」ことが大事です。理解したことを使って問題を解き、答案として表現できるか確認しましょう。

4. 基本の解き方をマスターし、様々な解き方を探求する。

解いた問題の答え合わせをして、基本的な解き方を押さえましょう。さらに、別の解法がないか考えることが大切です。教科書に載っている解法がすべてではありません。一つのやり方で満足するのではなく、別の解法を考える習慣をつけることで、問題解決能力は何倍にもなります。

(3) 復習について

中学校では、授業時間中さえしっかり集中していれば、授業についていくのにそれほど苦労しなかったかもしれません。しかし、覚えるべきことの質や量がレベルアップした高校の学習内容を完璧に理解するためには、授業だけでは不十分です。その日の授業内容を理解できたかしっかり確認しておきましょう。また高校の授業の進むスピードは、中学校とは段違いです。そのため、ほんの少しの「わからないこと」が、あっと言う間に手のつけようがないほど溜まってしまいます。疑問点は早めに解決しておきましょう。

1. 宿題は必ず自分の力で取り組む。
2. 授業で扱わなかった問題にも挑戦する。問題集は調査前だけでなく普段から取り組んでおく。
3. 解けない問題にも教科書・授業ノート・参考書で調べ、粘り強く取り組む。
4. それでもわからないときは、周りの友達に聞いてみよう。友達に聞くことで、質問した人も質問された人も理解が深まります。
5. どうしてもわからないときは、どこが、何がわからないのかを明らかにして、先生に質問しよう。

(4) 小テスト・定期考査

- ・ 大宮北高校では、教科書のまとまった単元、章が終わるときに確認のテストを行います。その単元、章の基本事項、標準的な問題が出題されるテストです。点数を気にするのではなく、自分の理解度を確認し、十分に理解している項目はさらに発展的な内容に、理解が不十分な項目は後回しにせず即座に基本から取り組みましょう。

- ・ 高校の定期考査は教科・科目数も多く、とても一夜漬けでは通用しません。数学も含め、どの教科も継続した日々の学習、家庭での予習、復習が欠かせません。定期考査前には、基本的には授業の理解を中心にして、教科書とノート、問題集を使って徹底復習しましょう。

高校で初めての定期考査は、何をすればいいのか不安な人も多いでしょう。

数学の小テスト・定期考査の出題内容は、簡単に言うと次のようになります。

- 教科書の練習，チャートの基本例題コンパス1・2にあるような「基本問題」
- 教科書の応用例題や章末問題A，チャートの基本例題コンパス3にあるような「標準問題」
- 教科書の章末問題B，チャートの重要例題コンパス4・EXERCISESにあるような「応用問題」

基本的にはこれらを、教科書と授業ノート、参考書を利用して、最初からもう一度自分の力で解くことが最低限必要になります。

解き方を暗記したり、模範解答を綺麗にノートに写したりして勉強した気になって終わるのではなく、**とにかく「考える」「答案を完成させる」ことが大切**です。代表的・典型的な例題は、解法パターンの習得が必要ですが、それでもすぐに模範解答をみるのではなく、時には時間をかけて考え、悩むことが必要です。**自分で考えてこそ**、模範解答を見たとき、納得し・解法に感心し、あるいは気づかなかったポイントが強く印象づけられるというものです。

実際に手を動かし・考え、その後で解法を確認する。学問に王道なし。千里の道も一歩から。継続は力なり。地道な努力を継続することこそが次の勝利へとつながるのです。

<事前対策のチェック&アドバイス>

2週間前Check <計画を立て、範囲内のポイントを徹底理解！>

- **テスト範囲を確認して、計画を立てる。**

試験範囲をもれなく対策するためには、計画的に勉強することが何よりも大切です。

- **知識にもれがないよう教科書・授業ノートを見直す。**

押さえるべきポイントや知識はすべて頭に入れましょう。

- **定理・公式の使い方をチェックする。**

定理・公式はただ覚えるだけでは点が取れません。理解し、基本問題を解いて使い方を確認しておきましょう。

1週間前Check <問題を解ける状態にしておこう！>

- **教科書、問題集の問題を解く。**

知識は、実際に問題が解けてはじめてテストで通用します。問題演習には徹底的に取り組みましょう。

- **課題プリントも確認し、問題を解いておく。**

- **以前、間違えたことのある問題は必ず解き直す。**

高校の定期テストでは問題を解く過程も採点の対象となるので、解法までしっかり確認しておきましょう。

- **教科書の章末問題、問題集の応用問題にも取り組む。**

前日Check <直前は最終チェック！>

- **解き方に不安のある問題はないか、再チェックする。**

□ 定理・公式などをもう一度確かめておく。

(5) ノートについて

少なくとも「予習・授業ノート」「問題演習ノート」「誤答訂正ノート」の3冊のノートを用意して下さい。

「予習・授業ノート」：日々の予習や授業で使います。

- ・予習の段階では、新しい言葉(定義)の確認、例題などを自力で取り組み、不明な点を明らかにしておきます。
- ・授業では、
 - ①章やタイトルを記入し、復習の時に見やすいノートを心がける。
 - ②式変形などは途中式を省略せず、後で見直したときに分かるようにしておく。
 - ③口頭での説明も含め、大切なポイントは、枠で囲んだり蛍光ペンで色づけしたり目立つようにする。
 - ④図やグラフは、大きめに丁寧に描く。問題で問われている状況がイメージしやすくなります。

「問題演習ノート」：チャートの問題等を解きます。

- ・例として、㉑：自力で解けた、㉒：ヒントを見て解けた、㉓：解答を見て理解した、㉔：解答を見て不明などのチェックをつけ、㉕～㉗は必ず解き直す。試験までに3回は繰り返すとよい。
- ・夏休みなどの演習課題を解く。

「誤答訂正ノート」：小テストや定期考査、課題テスト、実力テストの復習に用います。

- ・テストが終わって安心してはいけません。テスト勉強は、実は答案用紙が返却された後こそが本番と言ってもいいくらいなのです。その範囲内の最重要事項ばかりを凝縮して作られるのが試験問題です。間違えた問題、減点された問題を徹底的に解き直すことは学力を向上させるために極めて効果的です。

このことは、これから取り組むすべての試験で一番大切なことです。

- ①問題用紙、解答用紙を貼る。
- ②間違ったり、減点されたりした問題は、模範解答を参考に**解き直し**、解答の流れを整理する。
- ③誤答の原因や、**解法のポイント**をわかりやすくまとめる。
- ④**類題**を、問題集や教科書から探し解いてみる。
- ⑤最後に、テストの結果や普段の学習の仕方について**反省点や改善点**などをまとめる。

- ・自分がどこでつまづいたのか、どうして間違えたのかが一目でわかり、復習するのにとても便利です。このノートは後で何度も見返しましょう。返却された答案用紙は、これから成績アップするために何をすればいいのかを教えてくれる道しるべであり、向上への宝の山です！

(6) 最後に

<数学の2つの勉強法>

数学は積み上げていく学問なのでコツコツやっていくのが普通でしょう。定期テストくらいはこれで対応できます。しかし、理系の入試、さらに理工系で数学を応用する場合、これでは不十分です。必要なのは2つ、

「熱中する時間」「コツコツと学ぶ時間」

何か面白いことがあったらそれに熱中して考えてみましょう。その分野が得意になるはずですが。苦手な分野があったら8時間そこだけをやってみましょう。何かが見えてきます。中学の教科書を丸一日かけて見直すのもいいかもしれません。**コツコツ、時に熱中!**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
数学Ⅱ、数学B		6	数学Ⅱ、数学B、数学C [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」		
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。				
【学習上の留意点】		③ 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅱ」第4章 三角関数 第2節 加法定理	加法定理/加法定理の応用	○	○	○
		「数学Ⅱ」第5章 指数・対数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	指数の拡張/指数関数/対数とその性質/対数関数/常用対数			
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学B」第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	数列と一般項/等差数列とその和/等比数列とその和	○	○	○
		「数学B」第1章 数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	Σ 記号/階差数列/いろいろな数列の和/漸化式/数学的帰納法	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	「数学Ⅱ」第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化	微分係数/導関数とその計算/接線の方程式/関数の増減と極大・極小/関数の増減とグラフ	○	○	○
		「数学Ⅱ」第6章 微分と積分 第3節 積分法	不定積分/定積分/定積分と面積	○	○	○
		「数学B」第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	確率変数と確率分布 / 確率変数の期待値と分散/確率変数の和と積/二項分布/正規分布/母集団の推測/標本平均の分布/推定/仮説検定	○	○	○

11月 ～ 12月	2学期	「数学C」第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	ベクトルの演算・成分・内積/ 位置ベクトル/ベクトルの図形 への応用/図形のベクトル表示	○	○	○
	期末	「数学C」第2章 空間のベクトル	空間の点/空間のベクトル/ベク トルの成分・内積・図形への応 用/座標空間における図形	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期	「数学C」第3章 複素数平面	複素数平面/複素数の極形式/ ド・モアブルの定理/複素数と 図形	○	○	○
	学年末	「数学C」第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	放物線/楕円/双曲線/2次曲線 の平行移動/2次曲線と直線/2 次曲線の性質/曲線の媒介変数 表示/極座標と極方程式	○	○	○

※ 課題テスト（4月・9月・1月）：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト（7月・11月・1月）：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

※ 小テスト：単元ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する場合がある。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
理数数学Ⅱ	6	数学Ⅱ、数学B、数学C、数学Ⅲ [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」			
【到達目標】	① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。					
【学習上の留意点】	① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。					
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅱ」第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	指数の拡張/指数関数 /対数とその性質/対数関数 /常用対数	○	○	○
		「数学B」第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	数列と一般項/ 等差数列とその和/ 等比数列とその和/和の記号 Σ / いろいろな数列の和/漸化式/ 数学的帰納法	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学Ⅱ」第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	不定積分/定積分/定積分と面積	○	○	○
		「数学B」第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	確率変数と確率分布 /確率変数の期待値と分散/確率変数の和と積/二項分布/正規分布/母集団の推測/標本平均の分布/推定/仮説検定	○	○	○

9月 ～ 10月	2学期 中間	「数学C」第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	ベクトルの演算・成分・内積/ 位置ベクトル/ベクトルの図形 への応用/図形のベクトル表示	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学C」第2章 空間のベクトル 第3章 複素数平面	空間の点/空間のベクトル/ベク トルの成分/ベクトルの内積/ベ クトルの図形への応用/座標空 間における図形	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学C」第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	放物線/楕円/双曲線/2次曲線 の平行移動/2次曲線と直線/2 次曲線の性質/曲線の媒介変数 表示/極座標と極方程式	○	○	○
		「数学III」第1章 関数 第2章 極限 第1節 数列の極限	分数関数/無理関数/逆関数と合 成関数 数列の極限/無限等比数列/無限 級数	○	○	○

※ 課題テスト（4月・9月・1月）：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト（7月・11月・1月）：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

※ 小テスト：单元ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する場合がある。

観点別評価ルーブリック

教科 数学
科目 数学 II

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<p>・三角関数, 指数対数, 微分積分についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したたり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることに關する技能を身に付けている。</p>	標準テスト 定期考査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	<p>三角関数, 指数対数, 微分積分において, 事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 問題解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	標準テスト 定期考査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。 自己の思考や判断についての表現力に優れている。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。 自己の思考や判断についての表現力が標準的である。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。 自己の思考や判断についての表現力に乏しい。
学習的に取り組む態度	<p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 自身の得意・不得意な分野を把握し, 修練・改善したりしようとしている。</p>	提出物 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目
数学
数学B

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 数列、統計についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	標準テスト 定期考査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 数列・統計において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 	標準テスト 定期考査 等	該当問題の得点率が十分満足でき自己の思考や判断についての表現力が優れている。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。自己の思考や判断についての表現力が標準的である。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。自己の思考や判断についての表現力が乏しい。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、自分の得意・不得意な分野を把握し、修練・改善したりしようとしている。 	提出物 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

4 理科

◆ 理科という教科

「理科」は、自然のなかのしくみを考えるための科目です。私たちの生きているこの世界、宇宙、地球、物質、生物、自然現象について学習していきます。「理科」は「科学」とも呼ばれ、人類は自然のしくみを解き明かし、科学技術を発展させ、文明を作り上げてきました。

科学の学習では、まず、自然のなかにある「事物・現象」に関心をもち、「なぜ？ どうして？」という問いに気づき、その答えを観察や実験によって追求し、見つけ出した答えの先には更なる問いが待っているということを理解します。その後、科学と人間の関わり合いに目をむけ、自然とのつき合い方を考えます。

◆ 各科目

<物理基礎・物理>

「物理」は、自然現象がどのような原理、法則で生じるのかを追求する科目です。「力学」や「熱力学」、「気体分子運動論」、「波の性質」、「電磁気学」、「原子物理」等を学び、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、習得した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力を身につけられるようにします。

<化学基礎・化学>

「化学」は、ものを物質という観点から考える科目です。「物質の状態」や「物質の変化と平衡」、「無機物質」、「有機化合物」、「高分子化合物」等を学び、基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解することを目指します。そして、物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身につけられるようにします。1年生での既習事項を復習しながら新しい知識を学習することを強くお勧めします。

<生物基礎・生物>

「生物」は、この地球に存在している生物の共通性と多様性を考える科目です。「生物の特徴」や「生命現象」、「生物の環境応答」、「生態系」等を学び、生物の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、生物としての自分自身を理解し、自然界を構成する一員として、身の回りの自然環境を生物の多様性と生態系を通して考えられるようにします。

<地学基礎>

「地学基礎」は、地球や宇宙を考える科目です。「地球」や「地球の歴史」、「大気と海洋」、「宇宙の構造」等を学び、地球を基本とする自然科学の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、習得した見方、考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行い、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質、能力を身につけられるようにします。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
物理基礎	2	高等学校 改訂 物理基礎 (第一学習社)	改訂 プログレス 物理基礎 (第一学習社)			
【到達目標】	① 身近な物理現象と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ② 科学的に探究する力を育み、物理学と日常生活や社会との関わりを考えることができるようになる。					
【学習上の留意点】	① 問題を解くことができ、初めて内容を理解したことになります。問題が解けないうちはとても辛いと思いますが、できるまで何度も繰り返して乗り越えましょう。 ② 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまう。わからないことは後回しにせず、早めに理解しましょう。 ③ 理科は“現実 (リアル)”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。					
月	テスト	進度 (単元)		主に用いる評価の観点		
				知・技	思・判・表	主体性
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1部 物体の運動と エネルギー	第1章 物体の運動	○		○
6月 ～ 7月	1学期 期末		第2章 力と運動	○		○
9月 ～ 10月	2学期 中間		第3章 仕事とエネルギー	○	○	
		第2部 熱	第1章 熱とエネルギー	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第3部 波	第1章 波の性質 第2章 音	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第4部 電気と磁気	第1章 静電気と電流 第2章 交流と電磁波	○	○	○
		第5部 物理と 私たちの生活	第1章 エネルギーとその利用	○		○

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
物理基礎 サイエンス物理		4	高等学校 改定 物理基礎(第一学習社) 高等学校 物理 (第一学習社)	セミナー物理基礎+物理 (第一学習社)		
【到達目標】		③ 基本的な概念や原理、法則を理解し、物理学的に探求する能力と態度を身につける。 ④ 物理的な事象の観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高める。				
【学習上の留意点】		④ 公式を暗記しただけでは、物理は習得できません。公式の意味を考え、物理量どうしの関係を常に考えることが大切になります。教科書をしっかり読みこむことも必要です。 ⑤ 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまいます。わからないことは後回しにせずに、早めに理解しましょう。 ③ 理科は“現実(リアル)”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。				
月	テスト	進度(単元)		主に用いる評価の観点		
				知・技	思・判・表	主体性
4月 ～ 5月	1学期 中間	第I章 運動とエネルギー	第1節 物体の運動	○	○	○
			第2節 力と運動の法則			
6月 ～ 7月	1学期 期末		第3節 仕事と力学的エネルギー	○	○	○
		第II章 熱	第1節 熱とエネルギー			
9月 ～ 10月	2学期 中間	第III章 波動	第1節 波の性質	○	○	○
		第IV章 電気	第1節 静電気と電流			
11月 ～ 12月	2学期 期末	物理 第I章 運動とエネルギー	第2節 剛体のつりあい	○	○	○
			第3節 運動量の保存			
1月 ～ 3月	3学期 学年末		第4節 円運動と単振動	○	○	○
			第5節 気体の性質と分子の運動			
		第II章 波動	第1節 波の性質			
			第2節 第2節 音波			

※進度(単元)は、使用する教科書「高等学校 改定 物理基礎(第一学習社)」及び「高等学校 物理(第一学習社)」の目次に準ずる。

※基本的には、物理基礎と物理の各分野(力学や熱力学など)の内容を並行して学習を進める予定である。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
地学基礎	2	高等学校 地学基礎 第一学習社	セミナー地学基礎 第一学習社			
【到達目標】	<p>① 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③ 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>					
【学習上の留意点】	<p>⑥ 問題を通して、覚えるべき用語を把握しましょう。</p> <p>⑦ 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまう。わからないことは後回しにせず、早めに理解しましょう。</p> <p>⑧ 理科は“現実（リアル）”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。</p>					
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	【第1章】 地球のすがた	<input type="checkbox"/> 【第1節】地球の概観 <input type="checkbox"/> 【第2節】プレートの運動	○	○	○
6月～7月	1学期 期末	【第2章】 地球の活動	<input type="checkbox"/> 【第1節】地震 <input type="checkbox"/> 【第2節】火山活動	○	○	○
9月～10月	2学期 中間	【第5章】 生物の変遷と地球環境	<input type="checkbox"/> 【第1節】地層と化石 <input type="checkbox"/> 【第2節】地球と生物の変遷	○	○	○
11月～12月	2学期 期末	【第3章】 大気と海洋	<input type="checkbox"/> 【第1節】地球のエネルギー収支 <input type="checkbox"/> 【第2節】大気と海水の運動	○	○	○
1月～3月	3学期 学年末	【第4章】 宇宙と地球 【第6章】 地球の環境	<input type="checkbox"/> 宇宙と地球 <input type="checkbox"/> 【第1節】地球の環境 <input type="checkbox"/> 【第2節】日本の自然環境	○	○	○

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
サイエンス化学		2	化学基礎(数研出版)、化学(数研出版)	2025セミナー化学基礎+化学(第一学習社)		
【到達目標】		① 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ② 観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。 ③ 化学的な事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を養う。				
【学習上の留意点】		① 簡単な予習に取り組んだ上で, 授業に臨む。 ② 復習は現象理解と問題演習を行い, 知識・思考の幅を広げる。 ③ 大学入試を見据えて, 自ら積極的に取り組む。				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解 第1編 物質の状態 第1章 固体の構造	<ul style="list-style-type: none"> 電池 電気分解 結晶格子 結晶質と非晶質 イオン結晶 金属結晶 分子結晶 共有結合結晶 	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第1編 物質の状態 第2章 物質の状態変化 第3章 気体	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化 熱運動 三態変化とエネルギー 気液平衡と蒸気圧 気体の体積 気体の状態方程式 混合気体の圧力 実在気体 	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第1編 物質の状態 第4章 溶液	<ul style="list-style-type: none"> 溶解とそのしくみ 溶解度 希薄溶液の性質 コロイド溶液 	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 第3章 化学反応の速さとしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応と熱 化学反応と光 化学反応の速さ 反応条件と反応速度 化学反応のしくみ 	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第2編 物質の変化 第4章 化学平衡	<ul style="list-style-type: none"> 可逆反応と化学平衡 平衡状態の変化 電解質水溶液の化学平衡 	○	○	○

※ 課題テスト: なし

※ 実力テスト: なし

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
サイエンス生物		2	生物基礎 (数研出版) 生物 (数研出版)	リードα 生物基礎 (数研出版) リードα 生物 (数研出版)		
【到達目標】		④ 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ⑤ データの読み方を身に付ける。 ⑥ 共通テストおよび、個別試験に対応できる学力を養う。				
【学習上の留意点】		① 定期考査は、共通テスト、個別試験に準ずるレベルとなる。 ② サイエンスA地学基礎選択者は、2学期以降は生物基礎の復習及び演習となる。 ③ 〈生物〉第3章 呼吸と発酵 以降は3学年『生物』で行う。				
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	〈生物基礎〉 第3章 ヒトの体内環境の維持 第3節 免疫のはたらき 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系	<input type="checkbox"/> 免疫のしくみ <input type="checkbox"/> 免疫と病気 <input type="checkbox"/> 生態系と生物の多様性 <input type="checkbox"/> 生態系のバランスと保全	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	〈生物〉 第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子	<input type="checkbox"/> 生体物質と細胞 <input type="checkbox"/> タンパク質の構造と性質 <input type="checkbox"/> 化学反応にかかわるタンパク質 <input type="checkbox"/> 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第1編 生物の進化 第1章 生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化	<input type="checkbox"/> 遺伝子の変化と多様性 <input type="checkbox"/> 遺伝子の組み合わせの変化	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第1章 生物の進化 第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化	<input type="checkbox"/> 進化のしくみ <input type="checkbox"/> 生物の系統と進化 <input type="checkbox"/> 人類の系統と進化	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第2編 生命現象と物質 第3章 代謝 第1編 生物の進化 第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化	<input type="checkbox"/> 代謝とエネルギー <input type="checkbox"/> 光合成 <input type="checkbox"/> 生命の起源と変遷	○	○	○

※ 課題テスト： なし

※ 実力テスト： なし

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
SS理数化学		2	化学基礎（数研出版）、化学（数研出版） フォトサイエンス化学図録（数研出版）	2025セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）		
【到達目標】		① 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ② 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ③ 化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。				
【学習上の留意点】		① 簡単な予習に取り組んだ上で、授業に臨む。 ② 復習は現象理解と問題演習を行い、知識・思考の幅を広げる。 ③ 大学入試を見据えて、自ら積極的に取り組む。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解	・電池 ・電気分解	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素	・有機化合物の特徴 ・成分元素の検出、元素分析 ・アルカン、アルケン、アルキン	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第4編 有機化合物 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物	・アルコールとエーテル ・アルコールの性質と反応 ・芳香族炭化水素 ・フェノールの合成、反応	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物	・高分子化合物の分類 ・高分子化合物が生成する反応 ・単糖類、二糖類 ・タンパク質の構造・分類	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第5編 高分子化合物 第3章 合成高分子化合物	・縮合重合、開環重合、付加重合 ・熱可塑性樹脂 ・熱硬化性樹脂 ・イオン交換樹脂 ・天然ゴムと合成ゴム	○	○	○

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：なし

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
SS理数生物		2	生物基礎 生物 (数研出版)	リードα 生物基礎+生物 (数研出版)		
【到達目標】		⑦ 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ⑧ 仮説の設定等の実験計画および実験データなどを理解できるようにする。 ⑨ 共通テストおよび、個別試験に対応できる学力を養う。				
【学習上の留意点】		① 生物基礎と生物の重複分野は、両方の内容を学習する。 ② 定期考査は、共通テスト、個別試験に準ずるレベルとなる。				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に学 習に取り組 む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	〈生物基礎〉 第3章 ヒトの体内環境の維持 第3節 免疫のはたらき	<input type="checkbox"/> 免疫のしくみ <input type="checkbox"/> 免疫と病気	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	〈生物基礎〉 第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	<input type="checkbox"/> 植生の遷移 <input type="checkbox"/> 植生の分布とバイオーム <input type="checkbox"/> 生態系と種多様性 <input type="checkbox"/> 生物どうしのつながり <input type="checkbox"/> 生態系のバランス <input type="checkbox"/> 生態系の保全	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	〈生物〉 第1章 生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化	<input type="checkbox"/> ゲノムの多様性 <input type="checkbox"/> 減数分裂と受精 <input type="checkbox"/> 遺伝子の組み合わせの変化	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化	<input type="checkbox"/> 進化のしくみ <input type="checkbox"/> 生物の系統と進化 <input type="checkbox"/> 人類の系統と進化	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成 第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化	<input type="checkbox"/> 代謝とエネルギー <input type="checkbox"/> 呼吸と発酵 <input type="checkbox"/> 光合成 <input type="checkbox"/> 生物の起源と生物の進化	○	○	○

※ 課題テスト： なし

※ 実力テスト： なし

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
SS理数物理	4	高等学校 改定 物理基礎(第一学習社) 高等学校 物理 (第一学習社)	セミナー物理基礎+物理 (第一学習社)			
【到達目標】	① 基本的な概念や原理、法則を理解し、物理学的に探求する能力と態度を身につける。 ② 物理的な事象の観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高める。					
【学習上の留意点】	① さまざまな物理量が登場します。まずはそれらの定義をしっかりと覚えること。 ② さらに、公式を暗記しただけでは、物理は習得できません。公式の意味を考え、物理量どうし の関係を常に考えることが大切です。授業後には教科書をしっかりと読みこみましょう。 ③ 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習していきます。わからないことをそのままにしておくと、 次々にわからなくなってしまう。わからないことは後回しにせず、次回の授業までに理解しておくよう努めましょう。					
月	テスト	進度 (単元)	主に用いる評価の観点			
			知・技	思・判・表	主体性	
4月 ～ 5月	1学期 中間	第Ⅰ章 運動とエネルギー	第1節 物体の運動	○	○	○
			第2節 力と運動の法則			
6月 ～ 7月	1学期 期末	第Ⅱ章 熱	第3節 仕事と力学的エネルギー	○	○	○
			第1節 熱とエネルギー			
9月 ～ 10月	2学期 中間	第Ⅲ章 波動	第1節 波の性質	○	○	○
		第Ⅳ章 電気	第1節 静電気と電流			
11月 ～ 12月	2学期 期末	物理 第Ⅰ章 運動とエネルギー	第2節 剛体のつりあい	○	○	○
			第3節 運動量の保存			
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第Ⅱ章 波動	第4節 円運動と単振動			
			第5節 気体の性質と分子の運動	○	○	○
			第1節 波の性質			
			第2節 音波			

※進度 (単元) は、使用する教科書「高等学校 改定 物理基礎 (第一学習社)」及び「高等学校 物理 (第一学習社)」の目次に準ずる。

観点別評価ルーブリック

理科
物理基礎（2年生／普通科／文系）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物体の運動と様々なエネルギーについての観察、実験などを通して、物体の運動と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
主体的に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

観点別評価ルーブリック

理科
物理基礎サイエンス物理選択者（2年生／普通科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物理的な事象・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物理的な事象・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
主体的に学習に取り組む態度	物理的な事象・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

観点別評価ルーブリック

理科
地学基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	地球や地球を取り巻く環境についての観察、実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習態度に取り組む	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	①定期考査等 ②レポート等 ③査復習課題等	① 得点率が良好 ②③ 提出・内容が良好	① 得点率が良 ②③ 提出できている	① 得点率が不十分 ②③ 未提出

観点別評価ルーブリック

理科
サイエンス化学

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成・構成粒子、粒子の結合、物質量と化学反応式、酸と塩基の反応、酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的に結び付けて理解している。 日常生活や社会との関連を図りながら、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 	<p>小テスト 実験レポート 定期検査 行動観察</p>	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。 自己の思考や判断についての表現力が乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成、物質の変化とその利用について、それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。 物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。 	<p>小テスト 実験レポート 定期検査 行動観察</p>	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。 自己の思考や判断についての表現力が乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について主体的に関わり、化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>再テスト 自主直し 実験レポート 定期検査 行動観察</p>	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。</p>	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の意欲・行動が標準的である。</p>	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の意欲・行動に乏しい。</p>

観点別評価ルーブリック

教科 理科
科目 サイエンス生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習態度に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生命現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。 	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	① 得点率が良好 ②③ 提出・内容が良好	① 得点率が良 ②③ 提出できている	① 得点率が不十分 ②③ 未提出

観点別評価ルーブリック

理科
SS理数化学

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成・構成粒子、粒子の結合、物質量と化学反応式、酸と塩基の反応、酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。 日常生活や社会との関連を図りながら、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 	小テスト レポート 定期検査 行動観察	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成、物質の変化とその利用について、それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。 物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。 	小テスト レポート 定期検査 行動観察	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価される。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について対して主体的に関わり、化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	再テスト レポート直し 定期検査 行動観察	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。</p>	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。</p>	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。</p>

観点別評価ルーブリック

教科 理科
科目 SS生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通じて、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。 	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	① 得点率が良好 ②③ 提出・内容が良好	① 得点率が良 ②③ 提出できている	① 得点率が不十分 ②③ 未提出

観点別評価ルーブリック

教科
科目
理科
SS理数物理（2年生／理数科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
学習主体的に取り組む態度	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

5 保健体育科

体育

(1) 体育の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 健康な人生を送るための体力向上
2. 自ら進んで継続して身体活動を実践するための知識と技能の習得
3. 礼節を重んじ、仲間と協同し責任を持って行動できる精神の育成

(2) 2学年の学習について

1. 指導目標

- ・ 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して高度な運動技能を習得し、強健な心身の発達を促す。
- ・ 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度を育てる。
- ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できるようにする。
- ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等も学ぶ。

2. 評価について

授業態度（積極的な活動、体力の向上・技能の習得）、出欠状況、スキルテストの内容、個人・グループの学習カードの内容、ルールやマナーの理解度を基に以下の3つの観点から総合的に評価する。

【知識・技能】

- ・ 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。
- ・ 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。
- ・ 運動の技能の構造と運動の学び方を理解している。
- ・ 各競技のルール、練習方法、戦術について理解をしている。

【思考・判断・表現】

- ・ 自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考し判断している。
- ・ 課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。
- ・ 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片づけ、施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。
- ・ 健康や安全に留意して、自ら運動をしようとしている。

3. 授業について

1) 単位数 普通科3単位・理数科3単位

2) 授業の進め方（体育実技）

授業の進め方は概ね以下の通りである。

ランニング→集合→あいさつ・点呼→体操・補強→本時の説明→「活動」→整理体操→あいさつ

3) その他

- ・ 4月～10月は半袖 or 長袖Tシャツ、ハーフパンツ。
- ・ 禁止事項：タイツ、ストッキング、アクセサリ類の着用。
- ・ 運動制限や健康上の不安等がある場合、必ず担当教諭に相談すること。

(3) 学習内容

領域	領域の内容・単元		第1学年		第2学年		第3学年	備考
			男	女	男	女	男女共修	
体育理論			○	○	●	●	○	
体づくり	体力を高める運動(持久走)		○	○	●	●	○	
	体をほぐす運動		○	○	●	●	○	
陸上競技	長距離走		○	○	●	●	○	
	三種競技(走・跳・投)		○	○			□※1	
水泳	各種泳法		○	○	●	●		※2
	遠泳・競泳(複数の泳法)		○	○	●	●	□※1	※3
武道	柔道		○		●		□※1	
器械運動	マット運動			○	●		□※1	※4
	跳び箱運動			○	●			
	鉄棒運動			○	●			
球技	ゴール型	バスケットボール		○	●		□※1	
		ハンドボール	○			●	□※1	
		サッカー	○	○			□※1	
	ネット型	バレーボール			●	●	□※1	
		テニス					□※1	
		バドミントン					□※1	
		卓球					□※1	
	ベースボール型	ソフトボール					□※1	

※1 選択授業

※2 1年次にクロール・平泳ぎ、2年次に背泳ぎ・バタフライを行う

※3 1年次は2種類の泳法・2年次は4種類の泳法で行う

※4 3種目の運動の中から1種目または2・3種目を行う

(4) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名		副教材等		
体育		3	新高等保健体育				
【到達目標】		① 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して、専門的な運動技能を習得と、体力の向上がみられる。 ② 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度が身につく。 ③ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できる。 ④ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等を習得する。					
【学習上の留意点】		① 体育は実技教科なので、出席を特に重視している。 ② やむを得ず見学をする場合には、見学の理由等を記入し、授業の1時間前に教科担当に報告をし、指示を受けること。 ③ 授業には定刻前に余裕を持って集合する。集合場所については体育委員が事前に教科担当に確認し、クラスの生徒に連絡をする。					
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期中間	男子 ・体育理論 (スポーツにおける技術と戦術 ・戦略、スポーツにおける技能と体力) ・体づくり運動 (体力を高める運動) ・陸上競技(持久走)1500m	女子 ・体育理論 (スポーツにおける技術と戦術 ・戦略、スポーツにおける技能と体力) ・体づくり運動 (体力を高める運動) ・陸上競技(持久走)1000m		○	○	○
6月～7月	1学期期末	・球技(バレーボール) ・水泳(バタフライ・背泳ぎ) タイムトライアル	・球技(ハンドボール) ・水泳(バタフライ・背泳ぎ) タイムトライアル		○	○	○
9月～10月	2学期中間	・体づくり運動 (体ほぐし運動) ・器械運動(マット運動、跳び箱)	・体づくり運動 (体ほぐし運動) ・球技(バレーボール)		○	○	○
11月～12月	2学期期末	・体育理論 (技能の上達過程と練習の考え方、効果的な動きのメカニズム) ・陸上競技(長距離走)約5km ・武道(柔道)	・体育理論 (技能の上達過程と練習の考え方、効果的な動きのメカニズム) ・陸上競技(長距離走)約4km ・球技(バレーボール)		○	○	○
1月～3月	3学期学年末	・体育理論 (体力トレーニング、運動やスポーツでの危険予知と安全確保) ・体づくり運動 (体ほぐし運動) ・球技(バスケットボール)	・体育理論 (体力トレーニング、運動やスポーツでの危険予知と安全確保) ・体づくり運動 (体力を高める運動)		○	○	○

保健

(1) 保健の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための資質や能力の育成
2. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、正しく判断し行動できる能力の育成

(2) 2学年の学習について

1. 指導目標

生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。

社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。

2. 評価について

各学期の期末考査の得点を基準とし、以下の項目を加え総合的に評価する。

- 授業における提出物・レポート・課題・ノートの内容
- 長期休業中におけるフィールドワークレポートの内容
- 個人やグループの課題研究の内容
- 様々なレポートや研究活動の発表の内容やそれに対する評価

(3) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
保健		1	新高等保健体育（大修館書店）			
【到達目標】		<p>①生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p> <p>②社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。</p>				
【学習上の留意点】		<p>① あらゆる社会的課題を自分事として捉え、主体的に授業へ参加すること。</p> <p>② 日ごろから健康・保健に関するニュースに関心をもつこと。</p> <p>③ 自分の考えを色々な形で、相手に伝えられるようにすること。</p>				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月		第3章 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性意識の変化と性行動の選択 ③結婚生活と健康 ④妊娠・出産と健康		○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	⑤家族計画 ⑥加齢と健康 ⑦高齢社会に対応した取り組み		○	○	○
9月 ～ 10月		第3章 現代社会と健康 ⑧働くことと健康 ⑨労働災害の防止 ⑩働く人の健康づくり		○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第4章 健康を支える環境づくり ①大気汚染と健康 ②水質汚濁・土壌汚染と健康 ③健康被害を防ぐための環境対策 ④環境衛生に関わる活動 ⑤食品の安全性と健康 ⑥食品の安全性を確保する取り組み		○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第4章 健康を支える環境づくり ⑦保健制度とその活用 ⑧医療制度とその活用 ⑨医薬品の制度とその活用 ⑩様々な保健活動や対策 ⑪誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり		○	○	○

観点別評価ルーブリック

保健体育
科目 体育

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題の解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。 運動技能の構造と運動の学び方理解している。 各競技のルール、練習方法、戦術について、言ったり書きだしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 体力の向上 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト)	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 以上の項目を8割以上達成できている。	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 以上の項目を4割以上8割未満達成できている。	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 以上の項目が4割未満で達成できている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断している。 課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト)	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に積極的に取り組んでいる。 自己の思考や判断について表現力が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に取り組んでいる。 自己の思考や判断についての表現力が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、課題解決に取り組むことが乏しい。 自己の思考や判断についての表現力が乏しい。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片付け、施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。 健康・安全に留意して、自ら運動をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト)	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。 授業への参加状況、学習カードの提出が良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準である。 授業への参加状況、学習カードの提出が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が乏しい。 授業への参加状況、学習カードの提出が乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
保健体育
保健

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 個人及び社会生活における健康、安全について理解したことを言ったり書いたりしている。健康に適切な急手当について、習得した知識及び技能を適切に実践することができる。(1年) 	課題研究 定期考査等 心肺蘇生法 (1年)	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が8割以上達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割以上8割未満達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割未満達成できている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 健康について、自己や社会の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 	課題研究 定期考査等	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が乏しい。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 他の健康やそれを支える環境づくり及び安全な社会の形成に興味を持ち、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 課題研究や学習活動を振り返り、その結果を考察し、評価及び改善しようとしている。 	課題研究 自己評価 他者評価	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む、自己の学習への振り返り、改善への意欲が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む、自己の学習への振り返り、改善への意欲が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む、自己の学習への振り返り、改善への意欲が乏しい。

6 英語科

大宮北高校 第2学年 英語 科目案内

現在、英語は国際語としての地位を非常に勢いで確立しつつあり、それに伴って英語教育の在り方や入試制度も時代とともに変化している過渡期にあります。そんな背景を鑑みて、大宮北高等学校の英語の授業では、従来の説明中心の「紹介型」授業ではなく「技能習得型」の授業で、3年間を通し「実際に使える英語力」を鍛えていくこと、そして、生徒一人ひとりの将来の自己実現の力になる「人間力」の育成を目指します。

授業では、「英語でコミュニケーションが取れるようになりたい」、「英語を理解できるようになりたい」というみなさんの期待に応え、グローバルリーダーとして英語で発信していくために必要な、基礎を定着させる授業を行なっていきます。

2学年英語科 指導目標

今年度の2学年の英語科が掲げる目的は以下の3つの目標に則り、4技能5領域（聞くこと・読むこと・やり取り・発表・書くこと）をバランスよく育み、グローバルリーダーとなるために必要な「実際に使える英語力」と将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成することです。

1. 読む・聞く・話す・書く等のコミュニケーションに必要な**基礎的な語彙・文法の知識**、**表現を身に付け、適切に活用することのできる技能**を育むこと。
2. 読んだり聞いたりした情報や考えの概要や要点、**書き手や話し手の意図などを的確に理解し、論理的に表現することのできる力**を育むこと。
3. 英語を主体的に使ってコミュニケーションを取ろうとする態度を向上させるとともに、**自らに合った学習方略を選択し、自律的に学ぶことのできる学習者**を育み、支援すること。

大宮北高校の英語の授業

1. Weekly Test により知識の定着を確認

英語コミュニケーションIIと論理・表現IIの授業で、毎週単語・文法の小テストを行います。授業では知識を使って英語を「使う」時間に割くため、細かい基礎知識を確認する時間はあまり取りません。①**毎日の英語学習の習慣を確立** ②**基礎が定着しているかどうかを Weekly Test で確認** ③**定着した知識を使って授業で英語を使う活動をする** というサイクルを作っていきます。Weekly Test の内容（単語・文法の知識を定着させる学習）を疎かにする人は、授業にどれだけ積極的に参加したとしても英語力は伸びません。逆にこの内容に集中してチャレンジし続けた先輩はみんな力を付けていきました。英語は努力の学問です。一緒にコツコツ頑張っていきましょう！

2. 「CAN DO」に則って進むレッスン

授業は、英語を使って「～ができる」という CANDO リストに則って進められていきます。単純に「〇〇の単語や文法を理解する」のではなく、「〇〇の文法を使って自分の考えを伝えることができる」というような形です。例えば、スポーツのルールや用語だけを覚えていても、実際に体を動かして試合をやってみないと上手になりませんよね。英語も同じです。知識を増やし、授業でそれを実際に使うことが上達の近道です。英語を使って何ができるか、何をしたいのか、日々考えながら授業に参加しましょう。

3. 話す力（やりとり・発表）の力を重点的に指導

授業では「Speaking（やり取り・発表）」の活動を中心に進めていきます。Speaking の力が現在最も求められているにも関わらず、他者と一緒に学ばないとなかなか力が伸びづらいためです。授業での Speaking 活動を通して、英語圏で実際に使われている表現を知ることにより知識が深まり、即興で話そうとすることで瞬発的な英語の処理能力を向上させ、残りの3技能を底上げします。Speaking 能力は、英語コミュニケーション能力において、核となるものです。核となる技能を底上げすることができれば、以下のように他の3つの技能も育ちます。

Speaking 「話す力」

即興で、正しい発音・アクセント・文型に則り、自然な表現を話すことができる。

Reading 「読む力」

スピーキングが鍛えられていくと、語の塊、節や句が目飛び込んできますので、リーディングが早くなり、文章を理解しやすくなります。

英語を読むときは、自然と頭の中で音として響かせる傾向があるためです。

また、語順通り英語を読むことになり、リーディングの力が向上する。普段から音読をすることも、速読力・精読力を向上させるのに効果的です。

Listening 「聞く力」

英語でやり取りをする中で、話すためにはまず相手の言葉を正しく聞き取る必要があります。英語で話すために真剣に聞く時間が増えれば、おのずとリスニング力も向上します。

また、自らスピーキングをすることにより、耳でもそのスピーキングをした英語を聞くことになり、自分で正しく発音できない音は、聞くことが非常に難しいため、弱点の発見にもつながります。

Writing 「書く力」

正しい文型で、自然な英語表現で、英語で瞬時に言える練習を重ねていくと、同様に正しい文型で、自然なライティングができるということにつながります。

また、論理的にプレゼンテーションをする練習は、同時にエッセイライティングの際にも論理構成に気を付けながら客観的に説得力のある文章を書くことに繋がります。

学習のポイント

1. 英語は単語学習が9割

これからの1年間、365日、英単語の学習を継続させることが、英語力向上の最短ルートです。**5分からでもいいので、英単語の学習をルーティン化**してください。単語力が向上すると、自ずとリーディング・リスニングの理解度が向上し、スピーキング・ライティングで使える言葉が増え、英語学習がもっと楽しく感じるはず。「わかってはいるけれど、なかなか習慣化できない…」という人のために、以下のコツの中で取り入れられそうなものからチャレンジしてみてください。

- ・空白の「時間」「場所」にルーティンを入れ込む

(例)「朝に教室で」「通学時間に電車で」「放課後に自習室で」「夕食前にリビングで」

- ・やる気が出るのを待つのではなくテクノロジーに頼り、意欲をコントロールする

(例) リマインダー、アラーム、Study Plus、単語学習アプリ

- ・1日で全部覚えようとせず、忘れる前提で1週間同じ範囲を繰り返し確認する

× 1日50個完璧に覚える → ◎忘れる前提で1週間に200語確認し続ける

2. Input と Output の黄金比率は3：7

限られた時間の中で、効率的に結果を出す学習法とは、どんなものだと思いますか？

「英単語帳を眺める」「スタサブの解説動画を視聴する」「参考書を読む」だけの学習をどれだけ長時間行っても、結果にはなかなか結び付きません。コロンビア大学で行われた実験の結果、人がものを覚えるための黄金比は「**Input 3割：Output 7割**」だと判明しました。「**問題を解く**」「**人に説明する**」「**質問する**」「**テストする**」などの **Output の活動**を通じて、自分の知識を整理してどう活かそうか考え、その過程の中で記憶をするためです。

「Input ができていないのに、Output 中心で学習を進めることに不安を感じる」という人もいるかもしれませんが、**Output をすることは自分に定着していないポイントを明確化し、次の一步を考えることに繋がります**。Output 中心の学習の中で、ポイントを絞って Input の活動を入れ、2つのバランスを保ちながら学習するよう心がけてみてください。

英語検定について

近年、多くの大学入試で英検スコアが合否判定に活用されています。70期は進路実現と確かな英語力を養うため、「**2年時に英検2級取得**」という目標を掲げます。その第一歩として、1月の第3回検定は学校での全員受験となります。授業に加え、進学講習や2次試験対策も実施しますので、積極的に活用してください。既に取得済みの人も、高いスコアは入試で大きな武器となります。現状に満足せず、スコアアップや上位級への挑戦を続け、自分の可能性を広げましょう。


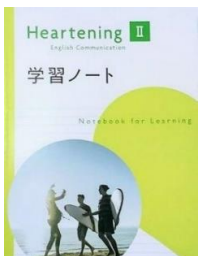
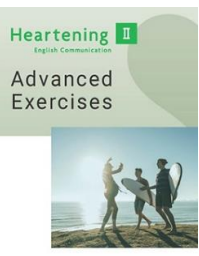

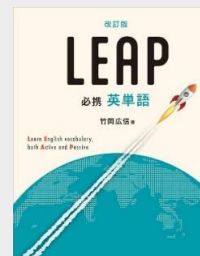


第2学年 英語コミュニケーションⅡ 単位数 普通科3単位 理数科3単位

1. 目標

知識・技能	英語4技能5領域の習得に必要な基礎的な語彙・文法の知識、表現を身に付ける。
思考・判断・表現	英語4技能5領域を活用し、自分の考えを相手に表現したり、相手の考えを理解したりする力をつける。
主体的な態度	授業を通して英語を学び続けることの意義や楽しさを感じ、主体的な学習者となる。

⇒インプット（聞く・読む）と、アウトプット（話す・書く）を通して、4技能5領域の英語運用能力をバランスよく伸ばす。

2. 使用教材と用途

Textbooks				Weekly Test : 週替わりの小テスト
Heartening II English Communication	Heartening 学習ノート	Heartening Advanced Exercises	Reading Flash Stage 2	LEAP 必携英単語
				
授業で主に使う教科書。 <u>予習の必要あり。</u>	予習用のノート。 <u>授業内で提出。</u>	復習用のワークブック。 定期試験出題範囲。	共通テストや検定に向けたリ ーディング教材。授業で実施。	単語帳。 <u>Weekly Test 出題範囲。</u>
Weblio Study			Work Sheet	
	リスニング課題に用いる Web サイト。課題の際のみ ならず、場面に応じて積極的に活用しましょう。			教科書の内容理解をさらに深め発展させるため、学んだ 知識を活用し使うために使用。 <u>単元終了後に提出。</u>

3. 指導計画


		Contents	言語材料	言語活動	評価の観点
1 学 期	中 間	Lesson 1 : Laughter without Borders (伝統芸能・対話文) Lesson 2 : The Ongoing Voyages of Curry (食文化・説明文)	未来の表現 時制の一致 前置詞	Intensive Reading Speed Reading Speech Conversation Retelling Presentation Essay Writing Weekly Test * 試験範囲は別紙	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に 取り組む態度
	期 末	Lesson 3 : The World's Most Bicycle-friendly City (環境・説明文) Lesson 4 : Can You Feel Emotions in Text? (言語・論証文)	助動詞 動名詞		
2 学 期	中 間	Lesson 5 : Background Music and Sharks (心理学・報告文) Lesson 6 : The Benefits of Play (脳科学・説明文)	不定詞 受動態		
	期 末	Lesson 7 : Nursing in a War Zone (平和・物語文) Lesson 8 : Hawaii's Debate about a Sacred Mountain (社会・意見文)	分詞構文 比較 従位接続詞		
3 学 期	学 年 末	Lesson 9 : The Next Wave in Artificial Intelligence (科学技術・説明文) Lesson 10 : What If There Were No Moon? (天文学・説明文)	関係詞 仮定法 無生物主語		

1. 目標

知識・技能	自分の意見を英語で話したり書いたりするときに必要な基礎的な語彙・文法の知識、表現を身に付ける。
思考・判断・表現	論理的・批判的思考に基づいて、英語でやり取り・発表をしたり、自分の意見を書いたりする力をつける。
主体的な態度	授業を通し英語を学び続けることの意義や楽しさを感じ、主体的に英語で考えを発信できる学習者となる。

⇒アウトプット（話す・書く）中心の活動を通して、グローバルリーダーとして必要な英語発信力を伸ばす。

2. 使用教材と用途

Textbooks			Weekly Test： 週替わりの小テスト	
EARTHRISE II Advanced	EARTHRISE II ワークブック	SKYWARD 総合英語	SKYWARD 総合英語 Intensive English Skills in 30 Lessons	英文法・語法 Vintage
				
授業で主に使う教科書。	復習用のワークブック。 <u>定期的に提出有り。</u>	自分で学習するのに使う 文法書。	授業で使う問題集。 <u>Weekly Test 出題範囲。</u>	発展的な内容の文法問題集。 <u>Weekly Test 出題範囲。</u>
Weblio Study				
	エッセイの添削、スピーチの練習などに用いる Web サイト。 課題の際のみならず、英語検定の対策やリスニング問題の演習など、場面に応じて積極的に活用しましょう。			

3. 指導計画

		Contents	言語材料	言語活動	評価の観点
1 学 期	中 間	Part 1 : Lesson 1 Part 1 : Lesson 2 Part 1 : Lesson 3	さまざまな主語の形 さまざまな動詞の形 名詞のはたらきをする表現	Speech Conversation Retelling Presentation Essay Writing Weekly Test *試験範囲は別紙	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に 取り組む態度
	期 末	Part 1 : Lesson 4 Part 1 : Lesson 5 Part 2 : Lesson 1	形容詞のはたらきをする表現 副詞のはたらきをする表現 感情を表す		
2 学 期	中 間	Part 2 : Lesson 2 Part 2 : Lesson 3 Part 2 : Lesson 4	助言する・忠告する／必要・義務を表す 勧誘する・提案する／依頼する 賛成する／反対する		
	期 末	Part 2 : Lesson 5 Part 3 : Lesson 1 Part 3 : Lesson 2	意見を述べる／希望を述べる パラグラフの構成 例示・列挙		
3 学 期	学 年 末	Part 3 : Lesson 3 Part 3 : Lesson 4 Part 3 : Lesson 5	比較・対照 原因・結果 時間的順序・手順		

観点別評価ルーブリック

教科 外国語 (英語)
科目 英語コミュニケーション 評価表現

		Filter 2 (観点)					
知識・技能 (Knowledge & Technics)		思考・判断・表現 (Critical Thinking)	主体的に学習に取り組む態度 (Attitude)	学習活動	A : 「十分満足できる」 Over 90%	B : 「おおむね満足できる」 80% - 40%	C : 「努力を要する」 Under 40%
読むこと	英語のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語の文章を正確に理解することができる。 現代の問題など、他の関心のあるトピックを扱った文章を、辞書などを活用せずに理解することができる。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを文章から的確に読み取り、理解することができる。		小テスト 定期考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
	R K	R C					
聞くこと	英語のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語での説明文や会話文を適切に聞き取ることができる。 自然な発音の標準的な英語で話されていれば、母語話者同士の会話の要旨を理解することができる。 長い話や複雑な話題の流れを理解することができる。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に聞き取り、理解することができる。		小テスト 定期考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
	R K	R C					
書くこと	英語のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語で文章を書くことができる。 幅広い話題や複雑な文構造をある程度使って、エッセイやレポートなどを書くことができる。	自分なりに聞いたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを、適切に書きすることができる。 自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論することができる。 また、フィードバックなどに対して、意見を率直に自分の主張を明確に述べるることができる。	他者を尊重し、聞き手に配慮しながら、外国語で聞いた内容や考えを、適切に書き加えて、自分の意見や考えなどを述べていく。 素直な意見や考えを述べていく。 言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	エッセイ 定期考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
	S K	S C	S A				
	W K	W C	W A				

7 STEAMS TIME II

(1) 学習について

1学年での経験を踏まえて、自身で選択した興味のある分野において、課題発見・設定を行い、1年間を通してじっくり課題研究を行います。実施形態は5つのラボ(数学・物理・化学・地学・生物)、7つのゼミ(国語・外国語・地歴公民・スポーツ・家庭生活・情報・芸術)に所属し、自ら課題を設定し、研究活動を行う形式となります。課題研究は、自分の興味あるテーマを設定し、それを研究するものです。そのために、必要な仮説、実験計画を立て、検証し、得られたデータを整理して、そこから結論を導きだします。この過程により、授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上もめざします。

ここからも分かるように、課題研究は、主体的にやっていくべきものとなります。

(2) 令和8年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
STEAMS TIME II		2	各教科の教科書	
【到達目標】		① 各自が設定した研究テーマについて、研究活動を行い、その成果を報告書等にまとめる。 ② 各自の研究成果の発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。 ③ 必要に応じて、大学や研究機関の協力を仰ぎ、先進的な内容に触れる。		
【学習上の留意点】		① 各自の興味関心に応じて研究テーマや活動内容を設定する。 ② 主体的な態度で活動に臨む。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期	ガイダンス 各研究に必要な技能の習得 研究テーマの設定	<input type="checkbox"/> 課題研究の手法を理解したか。 <input type="checkbox"/> 各ラボ・ゼミの活動を通して、活動に必要な技能の向上を図ることができたか。 <input type="checkbox"/> 主体的に研究テーマを設定できたか。	
6月 ～ 7月	1学期	検証実験開始 各研究に必要な技能の習得	<input type="checkbox"/> 実現可能な実験計画を策定することができたか。 <input type="checkbox"/> 仮説と検証実験の内容に整合性があるか。 <input type="checkbox"/> 活動に必要な技能の向上を図ることができたか。 <input type="checkbox"/> 実験結果を踏まえ、新たな方向性を模索することができたか。	
9月 ～ 10月	2学期	中間発表 検証実験の見直し 研究活動	<input type="checkbox"/> ポスターを作成し、他者にわかりやすく発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 実験結果に基づいた、客観的な結果になっているか。 <input type="checkbox"/> 研究内容は、論理的に正しいか。	
11月 ～ 12月	2学期	研究活動 プレゼンテーション資料の作成	<input type="checkbox"/> 得られた結果を考察することができたか。 <input type="checkbox"/> 研究目的・方法・結果など分かりやすくまとめたポスターを作成することができたか。	
1月 ～ 3月	3学期	研究発表(口頭発表) 最終資料の作成	<input type="checkbox"/> 発表スライドを作成し、他者に分かりやすく発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 指摘された事項を踏まえ、最終資料を作成することができたか。	

※芸術に関する内容は次ページ以降を参照してください。

音楽

1 音楽Ⅱ (STEAMS)

「音楽Ⅰ」の学習を基礎にして、資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することがねらいです。

2 目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指します。

3 評価の観点

- 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的及び多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする
- 2 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする
- 3 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う

4 2学年の学習内容

【表現】

歌唱・器楽

- ・表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに表現を創意工夫する
- ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり、その表現上の効果を理解する
- ・曲種に応じた奏法との関わり、その表現上の効果を理解する
- ・様々な表現形態による表現の固有性や多様性を理解する
- ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技術を身に付ける

【鑑賞】

- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴く
- ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深める

5 その他

- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考える
- ・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解する

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
音楽Ⅱ (STEAMS)		2	MOUSA②	My Song		
【到達目標】		① 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせられるようにする ② 生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する				
【学習上の留意点】		① 授業への取り組みや提出物も重視しています ② 中間検査や期末検査は実施しませんが、授業内に実技テストや発表があります				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間 未実施	≪表現≫ 歌唱 器楽 ≪STEAMS≫	<input type="checkbox"/> 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現を工夫したか	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末 未実施	≪鑑賞≫ 西洋音楽 ≪STEAMS≫	<input type="checkbox"/> 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさを味わって聴いたか		○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間 未実施	≪表現≫ 歌唱 器楽 ≪STEAMS≫	<input type="checkbox"/> 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、豊かに表現を工夫したか <input type="checkbox"/> 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり、その表現上の効果を理解したか	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末 未実施	≪鑑賞≫ 西洋音楽 ≪STEAMS≫	<input type="checkbox"/> 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさを味わって聴いたか <input type="checkbox"/> 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解したか	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末 未実施	≪表現≫ 歌唱 ≪STEAMS≫	<input type="checkbox"/> 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、豊かに表現を工夫したか <input type="checkbox"/> 詩と音楽の関係性に着目し、作曲家の工夫や表現を味わえたか	○	○	○

美術

1 美術Ⅱ

社会を見渡せば美術に関連した仕事や商品などがたくさんあります。

では、なぜ学ぶのだろうか。美術を学ぶ意味は、作品を描き作ることを通して「人間を知ること」です。例えば、文学でも歴史学・経済学でも人間を研究する学問であり、また理数系も自然界の法則について研究する物理や化学や数学や薬学などありますが人間の体内での化学変化などを調べているわけです。分野や方法は違っても人間を知ることには変わりはないのです。美術を通して試行錯誤を繰り返し、自分と向き合ってみましょう。

美術Ⅱは、幅広い美的体験の上に立ち、創造的な美術の諸活動を通して、自然や自己、社会などを深く見つけ表現する能力や、美術作品を多様な視点から分析し理解したり、心豊かな生き方にかかわる美術の働きを理解したりするなどの鑑賞の能力を伸ばすことをねらいとしています。

2 目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 評価の観点

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に取り組む態度

4 2年次の学習内容

(1) 【デザイン】

- ア 自然、自己、社会などを深く見つけ、生活を美しく豊かにするデザインの働きを考えて主題を生成すること。
- イ 目的や条件などを基に、デザイン効果を考えて創造的で心豊かな表現の構想を練ること。
- ウ 主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表現すること。

5 その他

○美術系及び建築系への進学を考えている者は、実技試験や作品が必要になるので早めに実技対策に取り組んでください。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
STEAMSTime II 美術		2	高校生の美術 2 (日本文教出版)			
【到達目標】		①視覚伝達デザインを通して自己とのかかわりで対象をとらえ、心豊かな生き方を実現するためのデザインの能力や態度を学びます。				
【学習上の留意点】		①授業時間ごとの取り組みや提出物を重視しますので、毎時間完結するつもりで受講してください。 ②中間及び期末テストは実施しません。				
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	《作品制作》 (探究/創作) デザイン 「地域PRポスター」 《調べ学習》 美術に関するテーマ	<input type="checkbox"/> デザインについて鑑賞し、学ぶことができたか。 <input type="checkbox"/> 街の調査をし、企画に結び付けることが出来たか。 <input type="checkbox"/> 企画をグループで話し合い、アドバイスを活かされたか。 <input type="checkbox"/> PR 企画を考えることができたか。	○ ○	○ ○	○ ○
6月 ～ 7月	1学期 期末	《作品制作》 デザイン 「キャラクターデザイン」 《調べ学習》 美術に関するテーマ	<input type="checkbox"/> キャラクターのテーマを理解し、を工夫できたか。 <input type="checkbox"/> タブレットのイラスト機能を使えたか。 <input type="checkbox"/> オリジナルキャラクターを作成できたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。	○ ○	○ ○	○ ○
9月 ～ 10月	2学期 中間	《作品制作》 (探究/創作) デザイン 「地域PRポスター」 《調べ学習》 デザインに関するテーマ	<input type="checkbox"/> マーケティングをし、企画に活かされたか。 <input type="checkbox"/> 地域 PR のためのコピー (文案) を考えることができたか。	○ ○	○ ○	○ ○
11月 ～ 12月	2学期 期末	《作品制作》 (探究/創作) デザイン 「地域PRポスター」 《調べ学習》 デザインに関するテーマ	<input type="checkbox"/> イラストを考え工夫できたか。 <input type="checkbox"/> レタリングの基本を理解し、作成できたか。 <input type="checkbox"/> 構図を検討し、イラストが表現に活かされているか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。 <input type="checkbox"/> コピーのレイアウトを理解できたか。	○ ○	○ ○	○ ○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	《作品制作》 (探究/創作) デザイン 「地域PRポスター」 《調べ学習》 デザインに関するテーマ	<input type="checkbox"/> 作品を鑑賞し、自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 着色効果を学び、ポスターに活かされたか。 <input type="checkbox"/> 雑誌のレイアウトを学んだ上で、制作の振り返りをポートフォリオにまとめられたか。 <input type="checkbox"/> ポートフォリオにまとめたことを発表で来たか。 <input type="checkbox"/> パワーポイントで発表スライドはできたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。	○ ○	○ ○	○ ○

1 学期ルーブリック

	A	B	C
知識・技能	研究内容について先行研究を調査し、仮説を立て、実証可能なテーマ設定ができた。	研究内容について先行研究を調査し、仮説を立て、テーマ設定ができた。	研究内容について先行研究を調査できておらず、テーマ設定も不十分である。
思考・判断・表現	仮説を実証するための予備実験・調査を行い、本実験・調査での検証が十分に可能である。	仮説を実証するための予備実験・調査を行い、本実験・調査での検証が可能である。	仮説を実証するための予備実験・調査が不十分である
主体的に学習に取り組む態度	テーマ設定においてグループでの活動が円滑になるような発言や行動を頻繁にしている。	テーマ設定においてグループでの活動が円滑になるような発言や行動をしている。	テーマ設定においてグループでの活動が円滑になるような発言や行動がない。

2 学期ルーブリック

	A	B	C
知識・技能	本実験・調査に必要な知識や技能を身に付け、それを十分に発揮している。	本実験・調査に必要な知識や技能を身に付け、それを発揮している。	本実験・調査に必要な知識や技能を身に付けていない。
思考・判断・表現	先行研究と自分自身の研究との違いを認識し、新規性を持たせて研究している。	先行研究と自分自身の研究との違いを認識し研究している。	先行研究と自分自身の研究との違いを認識できていない。
主体的に学習に取り組む態度	積極的に研究に対して取り組み、成果をあげた。	積極的に研究に対して取り組んでいる。	研究に対して消極的である。

3 学期ルーブリック

	A	B	C
知識・技能	1年間の研究や発表会を通し、各教科以外の知識や技能を身に付けることができた。	1年間の研究や発表会を通し、各教科で取り扱うような知識や技能を身に付けることができた。	1年間の研究や発表会を通し、知識や技能を身に付けることができていない。
思考・判断・表現	結果に対する考察が深く、それを的確に表現し、発表会などで聴衆に伝わるように表現できた。	結果に対する考察をし、発表会などで表現できた。	結果に対する考察が浅く、それを的確に表現できていない。
主体的に学習に取り組む態度	ポスターの作成に際して、緒言から今後の課題まで論理的に説明がなされ、充実したものとなっている。	ポスターの作成ができしており、文章が論理的に書かれている。	ポスターの作成が不十分であった。

観点別評価ルーブリック

教科 音楽
科目 音楽 II STEAMS

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	表現鑑賞発表 提出物	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 7割以上達成できている	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 4割以上7割未満達成できている	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 4割未満達成できている
思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	表現鑑賞発表 提出物	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 7割以上達成できている	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 4割以上7割未満達成できている	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 4割未満達成できている
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	表現鑑賞発表 提出物	主体的かつ協動的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 7割以上達成できている	主体的かつ協動的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 4割以上7割未満達成できている	主体的かつ協動的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 4割未満達成できている

観点別評価ルーブリック

美術
STEAMStime II 美術

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	・デザイン制作 ・探究／発表	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをとくに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをとくに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをとくに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が4割未満で達成できている。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができている。	・デザイン制作 ・鑑賞 ・探究／発表	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えられている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えられている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えられている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が4割未満で達成できている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われている。	・デザイン制作 ・鑑賞 ・探究／発表	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が4割未満で達成できている。